公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成27年9月1日発行（毎月1回1日発行）通巻553号

ハンドボール

AUG. SEP. 2015 No.553

特集

第3回 U-22東アジア選手権
第20回 ヒロシマ国際大会
第28回 ユニバーシアード競技大会

［表紙写真］第20回ヒロシマ国際ハンドボール大会、女子日本代表の横嶋かおる選手

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

新体制で、ハンドボール界の総力を挙げて取り組む、決意を持って

―リオ五輪に向けて！　2019 女子世界選手権に向けて！
2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて！―

公益財団法人 日本ハンドボール協会専務理事　**川上 憲太**

いよいよ 10 月 20 日から愛知県名古屋市・愛知県立体育館でリオ五輪女子アジア予選が開催されます。オリンピック出場の悲願達成のために、日本で、ホームでたくさんの応援の中で戦う環境・舞台が整いました。女子日本代表は、今年に入り 2 度の海外強化合宿、長期にわたる国内合宿を行い、栗山監督以下、不退転の決意でこの決戦に挑みます。皆様どうぞ試合会場で力の限りの応援をお願いします。試合会場に来られない方は NHKBS1 で応援よろしくお願いします。

同じく男子代表は 11 月 14 日からカタール・ドーハでリオ五輪アジア予選に挑みます。強化の途中でアクシデントがありましたが、逆境の中しっかり強化合宿を重ね、代表として「臥薪嘗胆（がしんしょうたん）」を胸に闘いに臨んでくれるものと期待しています。必ずやアジア 9 位という地獄の底から這い上がってくれるものと確信しています。今こそ皆様の激励・力強い応援が必要であります。宜しくお願いします。

2019 年の女子世界選手権につきましては、8 月に組織委員会の設立と大会シンボルマークを決定し、いよいよ本大会に向けた本格的準備に入ります。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックは、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会から具体的説明があり、大会の競技運営に関して、今後は各競技団体に準備の要項が示され、日本協会としても体制作りをスタートすることになりました。

ハンドボール競技の注目のためにも 2019・2020 ともに日本選手の大活躍が大前提であります。リオ五輪予選の強化スケジュールと並行して本格的強化活動を推進してまいります。

日本ハンドボール協会は 6 月末の評議員会で役員改選が行われ、上記した事業を強力に推進するために、新任理事が 6 名（女性理事の 1 名追加）と特任理事（2019 女子世界選手権熊本担当）1 名を加えた新しい役員による新体制が決定いたしました。組織の中に「ガバナンス室」を設け、協会運営のガバナンス力強化と各役員の執行状況の評価を定期で行うこととし、事業執行のさらなる推進を計ることとしました。

新体制は年度事業計画の推進は勿論のこと、第一に来年のリオデジャネイロ五輪出場に向けて全力で取り組むこと、第二に 2019 年女子世界選手権大会を大成功に導くこと、第三に 2020 東京オリンピック・パラリンピック・ハンドボール競技を IHF とともにこれも大成功させるための周到な準備をすることを業務執行の柱として活動を推進してまいります。

まさにこの目的を達成するためには強化本部・NTS・ジュニアアカデミー・マーケティング本部（強化資金）・総務本部（財務、広報、国際）・競技本部（競技・審判）・普及指導本部（育成、指導）・新設された事業本部（国内国際大会運営企画）、さらには技術委員会、リオ五輪女子アジア予選プロジェクト、2019 プロジェクト、2020 プロジェクト、20 万人会プロジェクト、そして日本リーグ、社会人連盟、全日本学生連盟、高体連専門部、各都道府県協会、ブロック協会等、協会組織のすべての部署と担当者がそれぞれの役割を責任を持って強力に推進することが必要となります。また、すべての事業が相互に関連していることから、連携をさらに密にして進めなければなりません。

まさに総力を挙げた「協会力アップ」に取り組まなければなりません。

三本柱を推進していくことは、「強化にベクトルをあわせる」ことはもちろん、子供たちを育て、たくさんのハンドボール愛好者を増やし、良い指導者を育成し、支援・応援してくださるサポーター、協賛各社を増やし、財務体質を改善し、国際力を高める等々につながっていることであります。そしてこのことが 2020 年以降につながるたくさんのレガシーを残し、継承させることになると考えます。

今後さらなる皆様のご理解・ご協力・ご支援をお願い申し上げます。

第3回U-22東アジア選手権

The 3rd East Asian U-22 Handball Championship

開催地：台湾　Chinese Taipei
会　場：台北市立大学　天母校区体育館
期　間：2015年6月23日（火）～6月29日（月）

最終順位

［男子］
優勝：韓国　2位：**日本**　3位：チャイニーズタイペイ
4位：中国　5位：香港　6位：マカオ
［女子］
優勝：韓国　2位：**日本**　3位：チャイニーズタイペイ
4位：中国　5位：香港

選手名簿

女子

役職	名前	所属
団長	志々場　修二	公益財団法人日本ハンドボール協会
監督	辻　昇一	公益財団法人日本ハンドボール協会
コーチ	山田　永子	公益財団法人日本ハンドボール協会
ドクター	大西　信三	公益財団法人日本ハンドボール協会
トレーナー	花岡　美智子	公益財団法人日本ハンドボール協会

背番号	名前	所属
1	岩見　佳音	三重バイオレットアイリス
2	谷　華花	大阪体育大学
4	團　玲伊奈	東京女子体育大学
5	近藤　万香	大阪体育大学
6	藤田　明日香	ソニーセミコンダクタ
8	高杉　桃加	オムロン
9	河原畑　祐子	筑波大学
10	斗米　菜月	東京女子体育大学
11	奥田　結菜	大阪体育大学
12	神谷　怜名	日本体育大学
13	山口　絵梨香	北國銀行
14	眞方　彩帆	東海大学
17	牧岡　咲良	日本体育大学
18	村松　沙耶	大阪教育大学
19	山本　真奈	大阪体育大学
20	澤井　咲良	オムロン

男子

役職	名前	所属
団長	志々場　修二	公益財団法人日本ハンドボール協会
監督	内記　徹	公益財団法人日本ハンドボール協会
コーチ	所　努	公益財団法人日本ハンドボール協会
GKコーチ	北林　健治	公益財団法人日本ハンドボール協会
トレーナー	大岡　恒雄	公益財団法人日本ハンドボール協会

背番号	名前	所属
1	袰屋　竜流	国士舘大学
3	園田　涼太	筑波大学
4	康本　侃司	日本体育大学
5	田里　亮稀	国士舘大学
6	小澤　基	日本大学
7	伊舎堂　博武	早稲田大学
8	大谷　由岐也	日本体育大学
9	清家　卓也	福岡大学
11	安平　拓馬	日本体育大学
15	野村　雄也	福岡大学
16	高光　凌	下松工業高等学校
17	山本　祐輝	浦和学院高等学校
18	山田　信也	愛知高等学校
20	川上　勝太	興南高等学校
21	徳田　廉之介	岩国工業高等学校
22	中村　光	藤代紫水高等学校

参加報告

団長　志々場修二

はじめに：今回の第3回U-22東アジア選手権大会の参加にあたり、ご支援をいただきました日本ハンドボール協会をはじめ、選手派遣を快く受け入れてくださいました所属チーム関係者、女子の事前合宿場所として御協力くださいました日本体育大学の皆様、㈱エモックエンタープライズの皆様には心より御礼申し上げます。

大会総括：第3回U-22東アジア選手権は、開催地台湾の台北市立大学を会場に2015年6月22日より29日までの7日間開催されました。今大会には日本代表チームとして、今年度8月に開催される男子ユース世界選手権大会（ロシア）・女子ジュニアアジア選手権大会（カザフスタン）に出場する、男子はU-19日本代表、女子はU-20日本代表チームが参加しました。結果、男女ともにU-22の大会にアンダーカテゴリーの選手で参加し、前回大会同様2位で大会を終えました。

大会参加国の派遣選手の状況については、男子において中国や台湾はオーバーエイジ枠（2枠）を使ってチームを編成しており、今大会に並々ならぬ意気込みを感じる国もありました。ライバル韓国については、今年7月に行われる世界ジュニア選手権大会（ブラジル）に出場するチームが参加していました。女子に関しては、韓国はジュニアアジア選手権大会に参加するチームで参加しており、アジア大会の前哨戦となりました。韓国を除く女子チームは、台湾がスピードとパワーを備えたチームであったという印象で、前後半を戦略を持って戦われると今後苦戦させられるのではないかと感じました。

大会運営については、男子は事前にエントリーしたはずのモンゴルが参加しないということで参加国が前回同様の6カ国になりました。前回までは参加国総当たりのリーグ戦でしたが、今大会においては3チームずつの2つのリーグに分かれ予選リーグを行い、予選リーグ1位、2位による決勝トーナメントを行う方式がとられました。女子は参加国が5カ国であったため、前回大会同様5カ国のリーグ戦で順位を争いました。競技は23日のオープニングセレモニー前にオープニングゲームが設定され、日本男子チームが香港と対戦しました。ホテルから会場までバスで30分程度移動しなければならない中、試合開始が13時にも関わらずホテル出発時刻が11時40分とタイトなスケジュールでありました。ウォーミングアップを急ピッチで行い監督・コーチ陣の綿密

なスケジュール管理でオープニングゲームを勝利しましたが、大会運営サイドとの連絡を密に取り合う必要性を感じました。幸いにも、日本チーム担当の現地スタッフはご両親が日本人であったため、コミュニケーションを日本語でとることができました。大会全体を通して、台湾協会の方々のホスピタリティ溢れる大会であり、親日家が多いという地域柄か日本チームの要望には親身になって対応していただいたと感じております。

試合を通して：男子は予選リーグＢ組において香港、中国と対戦し１位通過しました。予選リーグで対戦した中国は平均身長が 190 ㎝を超えており、世界大会に出場する男子ユース日本代表選手にとっては非常に貴重な経験となる試合であったと感じます。決勝トーナメント初戦はＡ組２位の台湾との対戦でした。韓国との対戦を分析し、オーバーエイジ枠で出場している左腕エースと GK に着眼し対策を取ったものの、大変苦戦し、前半を５点差でリードされる展開でした。体格に劣る日本でありましたが、後半はしつこくチーム一丸となって DF し 15 分には同点に追いつきました。しかし、相手 GK の好セーブにも阻まれ逆転できないまま時間は進み残り５秒でこの試合唯一リードすることができました。何とか僅差で勝利できましたが、台湾の技術力の向上を改めて実感した試合でありました。決勝は、韓国と対戦しましたが、相手のスピード・テクニックに常に後手を踏み、ハードなコンタクトにも耐えきれない状況でありました。改めて、ライバル国の強さを痛感するとともに、フィジカルトレーニング・戦術トレーニングの必要性を感じる試合でありました。選手には、この経験を今後の世界ユース選手権だけではなく、選手一人一人の成長の糧としてもらいたいと切に願います。

女子については、香港・中国は技術力も体力面も格下と言えるものでした。しかし、男子同様台湾については、積極的な DF から力強く攻めるスタイルで苦戦させられ、前半はリードを許す展開でした。後半は、相手の戦術にうまく対応し逆転、ペースを掴んだ日本は一気に相手を突き放しました。大会２日目に今大会最大のライバル国、韓国と対戦しました。ゲーム序盤は日本ペースで進みましたが、相手の DF 戦術に OF が対応できなくなり 10 分過ぎに逆転され、ミスから速攻を許す展開になり前半で５点差をつけられてしまいました。後半は、意地を見せた日本でしたが残り 10 分 20 対 24 の局面から６連続失点を許し 24 対 33 で敗戦しました。男子同様、DF システムの使い分け、あらゆる戦術を仕掛けてくるあたりは、トレーニングの充実ぶりを感じるところでありました。それに加え、個々の１対１の打開する力が日本より長けていることは一目瞭然であり、我々が日々のトレーニングにおいて意識改革して取り組む必要があると強く感じるところでありました。

おわりに：今大会に出場した日本代表チームは男女ともに、この大会後に重要な大会を控えている選手たちです。今回の大会の反省を生かし、次の大会への良い準備をして更なる輝きを放ってほしいと思います。そして、2020 年に東京で開催されるオリンピックに一人でも多くコートで活躍してほしいと期待しています。

最後になりましたが、代表チームの大会参加派遣等ご協力を頂きました選手の所属チームの先生方、大会前の準備から大会後までサポートをいただいた日本ハンドボール協会事務局の皆様に改めて感謝申し上げ、今回の大会報告とさせていただきます。

男子監督　内記　徹

第３回 U-22 東アジア選手権出場に際し、日本ハンドボール協会の関係者をはじめ、選手を派遣して頂いた所属チームの先生方やご家族の皆様には、多大なご理解とご協力を賜りまして心から感謝申し上げます。目標としていた「東アジアチャンピオン」には届きませんでしたが、年代を下げて参加し台湾や中国に競り勝つことができ U-19 日本代表にとって良い経験をさせて頂きました。

５月中旬の関東学生春季リーグ戦終了を待って、U-19 男子日本代表を再結成し、２回の強化合宿で U-22 東アジア選手権に挑みました。決して十分な強化ではありませんでしたが、選手の直向きな努力と昨年のユースアジア選手権の経験もあり、迷いなく日本代表として戦う準備を進めることができました。今回の U-22 東アジア選手権は、ジュニア・ユースの世界選手権に向けた準備大会として、男子ジュニア若しくは男子ユースでの出場と打診がありました。男子ジュニアの佐藤壮一郎監督と田口隆強化委員長と協議し、大学１年生主体の男子ユースが試合経験不足を補うためにという理由で出場を許可して頂きました。第１回の強化合宿では、世界選手権に向けての選手選考を兼ねて行いました。また、関東学生春季リーグ戦が終了しないと合宿がスタートできなかったり、高校生メンバーはインターハイ予選と重なり合宿に参加できなかったりと全員揃って十分な強化を行うことができない時期でもありました。その中で、世界選手権を見据えて中国や台湾の高さや力強さに対する強固なディフェンスの構築や宿敵韓国との攻防に競り勝てる攻守の切り替えの速さを意識したトレーニングを中心に行いました。

U-22 東アジア選手権はオーバーエイジ枠（２名）が参加することができ、昨年の仁川アジア大会で活躍していた選手も参加していました。日本は韓国に続いて準優勝になることができましたが、年代を下げて参加しメダルに絡まない活躍であったら、東アジア連盟から批判を浴びていたのではないかとの懸念がありました。チームは試合を重ねるごとに結束力を強め、また選手間の役割分担を明確にすることができました。体力的に不安な部分がありましたが、選手を代えながら全員が活躍できるように配慮し、試合の終盤まで粘り強く展開することができました。特に、ゴールキーパーには一定の成果があり、登録した３名が試合中に相手の特徴を見抜き

き23対31で敗れ、今大会を2位で終えることとなりました。

大会を通じて、個々の選手の更なる技術向上やフィジカル強化を行っていかなければ、国際試合では勝ち上がれないのだと改めて実感しました。

韓国に勝利し、そして東アジアチャンピオンになるという目標は叶えることはできませんでしたが、国際試合を経験したことで、選手一人一人が一回り大きくなれた、と胸を張って帰って来ることができたのではないかと思います。このような結果を出せたのも、志々場団長をはじめ、内記監督、北林コーチ、所コーチ、大岡トレーナー、大西ドクターはもとより、協会関係者、日本から応援を送ってくださった方々のお陰です。本当にありがとうございました。

ながら対応することができたと思います。逆に連携不足からパワープレーチャンスをものにできず、韓国戦では悔しい思いをしました。優勝した韓国はやはり攻守の面で多様な戦術が統一されており、対策が豊富だと感じました。

今大会への出場機会を与えて頂いた方々をはじめ、応援して頂いた多くの方々に心より感謝いたします。この経験を次戦のユース世界選手権に繋げると共に、日本ハンドボールの世界への挑戦を今後も全力で推し進めたいと思います。

男子キャプテン　康本 侃司

第3回東アジア選手権は、6カ国が参加し、A・Bの2グループに分かれて予選を行い、各グループ2位までが決勝ラウンドに進むことができます。今大会は22歳以下の選手が参加できる大会ですが、オーバーエージ枠を活用して22歳以上の選手を起用している国がある中、私達日本チームはU-19（ユース）チームで試合に臨むことになりました。日本での試合とは異なりどの国の選手も日本チームより一回り大きく、昨年の9月に開催されたU-19アジア選手権と同様に体格差を感じましたが、強豪国でライバル国である韓国も出場している為、「アジア選手権のリベンジだ」という思いで戦いました。

大会初日の香港戦、「オープニングセレモニーの前に試合をする」という今までに経験のない状況での試合であり、かつ初戦でもあったことで、緊張しプレーが硬くなっていた試合でした。しかしながら、33対23で勝つことができました。

2戦目もオーバーエージ枠の選手がいる中国に30対23で勝利し、予選Bグループ1位で通過することができました。

決勝ラウンド1試合目はAグループ2位である台湾との試合でした。開催国ですので、観客が多く、台湾応援団の声援も大きかったので、プレッシャーの掛かる戦い、辛い試合となりました。台湾チームはオーバーエージ枠選手の2m近くある左利きのバックプレイヤーとキーパーを加えたチームで、前半は12対17の5点差で負けていましたが、後半はハーフタイムで話し合って決めた事を全力でやりきり、最後の最後、29分58秒で競り勝つことができました。

続く決勝戦では、U-21（ジュニア）チームで出場している韓国と私達U-19（ユース）チームとの対戦になりました。前半は韓国が得意とするプレスDF、パワープレーで8対15とリードされ、後半、粘りはしたものの前半での得点差が響

女子監督　辻　昇一

今回、U-20女子日本代表が第3回U-22東アジア選手権に参加することに際し、日本ハンドボール協会、全日本学生ハンドボール連盟、各選手所属チーム関係者の皆様、株式会社エモックエンタープライズ様、及び各方面から様々なご支援を戴きました多くの方々に厚く御礼を申し上げます。

私達、U-20女子日本代表は、8月にカザフスタンで行われる第13回女子ジュニアアジア選手権に向けて結成したチームであります。来年に行われる女子ジュニア世界選手権の出場権を獲得し、本大会で好成績を残すため、若い選手達の国際試合での経験を積み上げ、日本代表として勝つことを使命として進んでいく中で、今大会に出場させて戴きました。

選手選考に関しましては、2019年熊本世界選手権、2020東京オリンピックにおいて活躍できる可能性を持った選手の国内スケジュールを鑑みながら、選考することとなりました。

U-20のカテゴリーは日本リーグ、大学生、高校生の選手が対象となることから、スケジュール調整が難しいところがありますが、各所属チームの関係者の方々にご協力戴き、大会参加まで短い期間ではありましたが、2回の合宿を行うことが出来ました。昨年の世界ユースに出場した選手が中心となり、新しくノミネートされた選手もスムーズにチームに溶け込んでくれたと感じています。

戦術面では、攻守においてシンプルな約束を設け、各選手にコート内外のコミュニケーションを大事にすることを促し、共通理解を持つことを心掛けました。選手達はコミュニケーション能力が非常に高く、選手だけでの前向きなミーティングも大会中、再三行っておりました。

直前合宿の後の6月22日に台湾に入りました。気温37

度を越える時もあり、大変暑い気候でありましたが、大会会場は空調がしっかりしていて問題はありませんでした。大会は５チームによるリーグ戦方式で行われ、６月 24 日初戦の香港戦は、立ち上がりに硬さがあり、失点を許しましたが、35-12 で勝利しました。翌 25 日に韓国と対戦しました。韓国は日本と同じ U-20 代表チームでした。韓国の初戦をスカウティングして、DF では左サイドの攻撃をいかに止めるかということ、OF ではポスト中継の位置取りの確認とアウト側への攻撃の展開を重視することを確認しました。試合は前半のスタートに成功しますが、反撃され 11 対 16 で折り返し、後半の残り 10 分まで４点差でついていきましたが、そこからミスからの速攻で失点し、最後は 24 対 33 で敗戦となりました。左サイドの失点は防げましたが、DF のずれからの右側アウトカットインで多く失点してしまい、その対策が後手に回ってしまったところが反省として挙げられます。26 日の中華台北との試合は前半に相手の激しい DF に苦戦し９対 12 で前半リードをされましたが、後半 15 分過ぎから、連続得点で逆転し、22 対 19 で逆転勝ちを得ました。日本の最終試合は 28 日に中国戦でした。大型選手を揃える中国に対して、日本は速攻でペースを掴みリードを保つことが出来ました。後半は簡単な失点をする時間帯がありましたが、30 対 19 で勝利しました。大会を通して大きな怪我もなくチーム全員がそれぞれの持ち味を発揮してくれたと感じています。山田永子コーチは全体及び個人に対して適切なアドバイスを与え、選手が安心してプレーできる原動力となってくれました。コート外においても豊富な海外経験からの知識と行動力から、様々な場面でその能力を発揮して戴きました。また花岡美智子トレーナーも毎日遅くまで選手のケアを献身的に行って戴きました。大西信三トレーナーと共に、選手の心身の支えとなってくれて、選手が元気にプレーする基本を作って戴き大変助かりました。また、U-19 男子代表のスタッフとも密に情報交換ができ、お互いに協力しながら大会を進めていくことは心強くありました。そして、志々場修二団長には、大所高所からスタッフや選手達に様々な助言や示唆を戴き感謝申し上げる次第です。男女チームともに大会を通して志々場団長のお人柄に触れ、笑顔で臨むことが出来ました。

チームは８月のアジアジュニア選手権に向けて強化を進めてまいります。今大会での反省を活かして戦う準備をし、選手の能力を最大限に引き出して、結果として示せるように精進していきたいと思います。

女子キャプテン　河原畑 祐子

初めに、６月 23 日～ 29 日にかけて台湾で行われました U-22 東アジア選手権において、多大なるご支援とご声援をいただきありがとうございました。また事前合宿の際、日本体育大学にお世話になり、充分に練習時間がとれない中でも日本体育大学の皆さんのご協力により、中身の濃い練習をすることが出来ました。

３泊４日の直前合宿を終え、22 日に台湾の地に踏み入れました。独特な湿気による暑さに不安がよぎりましたが、試合会場・ホテルの設備がとても良く、また台湾でのチームガイド兼通訳として帯同してくださったショージさんが細かくサポートしてくださり、何不自由なくハンドボールに没頭することが出来ました。

今大会は台湾・韓国・中国・香港そして日本の５カ国によるリーグ戦で行われ、宿敵韓国とは２試合目での対戦となりました。初戦の香港戦では初戦ならではの緊張感と、初見のチームだったということもあり、チームに固さが見受けられましたが 35（17-7，18-5）12 で勝利を収めることが出来ました。続いて２戦目は宿敵韓国との試合。序盤から韓国に流れを持っていかれてしまい、得点を重ねることが出来ず前半を５点差で折り返しました。後半には逆転できるチャンスもありましたが、結果 24（11-16，13-17）33 とアジア選手権を目の前にして現時点での韓国との差を痛感した試合となりました。３試合目の台湾戦では開催国ということでアウェーな状況での試合でしたが 22（9-12，13-7）19 と 22 歳を中心とした目上の選手に対して前半のビハインドを後半に返し、勝ちきることが出来ました。最終戦は 170 ㎝超えの大型選手が多く揃っている中国戦。30（17-7，13-14）21 と得点的には開いたものの、内容的には大きな選手に対しての OF や DF などの課題が多く見つかった試合でもありました。総合結果は１位韓国２位日本となりましたが１位と２位の差は大きく、アジア選手権に向け個の強さとチーム力に磨きをかけていかなければいけないと思いました。

志々場団長、辻監督、山田コーチ、大西ドクター、花岡さん、協会関係者の皆様、ご声援をして下さいました多くの方々に感謝し、８月のジュニアアジア選手権では一回り二回りと成長できるよう精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

戦　評

男　子

■６月23日（火）

日本　33（16-11, 17-10）21　香港

大会前日に台湾入りし、気温・湿度ともに想像以上に高い中、U-22東アジア選手権がスタートした。開会式前のオープニングゲームに割り当てられ、緊張感が高まる中、予選リーグ初戦の香港と対戦した。スタートは康本・田里・伊舎堂・小澤・山田・安平・GK袰屋のメンバーで臨んだ。前半立ち上がりは、練習してきた6-0スイッチディフェンスで積極的に挑もうとしたが、相手のゆっくりとしたボール回しにテンポが掴めず、上手く速攻につなげることが出来なかった。オフェンスでも慌てて展開した攻撃がミスになり、ロースコアで試合が進んだ。20分過ぎから徐々に相手の特徴を捉えた日本は、センター田里の個人技や清家・小澤・安平の速攻で得点を重ね前半を16対11で折り返した。

後半も相手のペースに惑わされながら一進一退の攻防が続いたが、代わって入ったGK中村の好セーブから山本・大谷・園田の３連打で流れを掴みリードを広げた。終盤もメンバーを動かしながらディフェンス中心の攻防に徹し、33対21で初戦をものにした。

［個人得点］田里・小澤：６点、清家・安平：４点、大谷・川上：３点、山本・徳田：２点、園田・康本・伊舎堂：１点

■６月24日（水）

日本　30（14-11, 16-12）23　中国

予選リーグ２戦目は、平均身長190㎝を超える中国と対戦した。立ち上がり日本は、低いラインから強いコンタクトを意識したディフェンスで挑んだが、試合開始早々、身長２mの相手のポイントゲッターに中央から力強く打ち込まれた。伊舎堂・山田・小澤で予測的に連動しながら対応し、徐々にGK袰屋に的を絞らせることができた。オフェンスではボールが動く、人が動くことを意識し、田里・伊舎堂・清家のコンビネーションで攻撃を組み立てた。予想以上の高さと強さに阻まれ一進一退の展開が続くなか相手の退場もあり、３点リードで前半を14対11で折り返した。

後半立ち上がりは、相手の長身選手にピポットプレーヤーとしてエリア際を力強く攻撃され、連続失点と退場者を出し上手くリズムが取れない時間が続いた。非常に悪い雰囲気であったが、GK袰屋が相手のカットインシュートとサイドシュートを連続してシャットアウトし、相手に流れを渡さなかった。その後も苦しい場面が続いたが、代わって入ったGK高光・中村も好セーブを連発し、後半は３人のGKで50%近いセーブ率を示し30対23で勝利した。GKの活躍は勿論であるが、頭上高くあがったリバウンドボールを中国の長身選手からに日本が集団でボールを奪い取った姿は、日本の執念を感じた瞬間であった。

［個人得点］田里：７点、伊舎堂：５点、小澤：４点、大谷・清家・安平：３点、川上：２点、康本・山田・徳田：１点

■６月26日（金）：準決勝

日本　29（12-17, 17-11）28　チャイニーズタイペイ

予選リーグを１位通過し、準決勝は開催国チャイニーズタイペイと対戦した。前半立ち上がりは、オーバーエイジ枠で出場している196㎝の左利きバックプレーヤー趙選手に中央から連続して打ち込まれた。日本は、田里・伊舎堂・山田・安平らで攻撃を組み立てるが、同じくオーバーエイジ枠の195㎝のGKに連続して止められ15分まで７対10とリードを許した。ポイントゲッター趙選手にあらゆるディフェンス戦術で対応したが、力強さにテクニックを兼ね備えており、前半だけで９得点奪われた。日本に試合の流れを渡さない雰囲気であったが、途中出場の大谷の鮮やかなロングシュートや川上の粘り強いピポットプレーで反則を誘い、どうにか前半を12対17で折り返した。

後半は趙選手への対応が重要であったが、今まで練習で積み重ねてきた連動したスイッチディフェンスに戻し、再チャレンジした。立ち上がりこそ趙選手に豪快に打ち込まれたが、徐々に相手選手との間合いをとることができ、ハードアタックと密集を継続することができた。ディフェンスでリズムを掴んだ日本は、小澤・田里の速攻や康本の豪快なステップシュートが決まり、残り15分で21対21の同点に追いついた。その後も地元応援団で会場が盛り上がる中、チャイニーズタイペイが先制して日本が追いつく一進一退の攻防が続いた。29分30秒に再度訪れた逆転のチャンスにコンビネーションプレーから田里の得意のクイックシュートがゴールに突き刺さり、29分58秒はじめて逆転に成功し勝利した。後半は２度の7mTを止められながらリバウンドボールを得点にしたり、山田の体を張ったルーズボール処理を全員で繋いで得点にしたりと絶対に勝負を諦めない姿勢が勝利をものにした。

［個人得点］田里：８点、伊舎堂・安平：４点、康本・小澤・大谷：３点、川上：２点、清家・山田：１点

■６月29日（月）：決勝

日本　23（8-15, 15-16）31　韓国

男子決勝は宿敵韓国と対戦した。前半日本は、韓国の大きく速いクロス攻撃に中央を厚くしてゴールから遠ざけるディフェンスで対応した。粘り強いディフェンスとGK袰屋の活躍もあり、立ち上がりは互角の展開であった。攻撃では韓国の出足の速い3-2-1ディフェンスに、伊舎堂・康本が強気でゴールを狙い得点に結びつけた。韓国の粗いディフェンスに連続して退場者を奪うことができたが、パワープレーのチャンスをものにすることができず主導権を握ることができなかった。逆に韓国の巧みな個人技からサイド・ポストに振られ、前半を８対15で折り返した。

後半は、園田・小澤・山田らでディフェンスシステムを組み換えながら韓国の攻撃に対応した。徐々に韓国の速いコンビネーションプレーに予測的に反応することができ、安平の連続速攻などで流れを掴んだ。その後も途中出場の山本が、ロング・カットインと韓国ディフェンスを揺さぶりながら得点し、残り15分18対23の５点差に詰め寄った。その後、韓国は慌てることなく得意のトリックプレーを連続して展開し、攻撃の手を緩めることなく23対31で終了した。

今回韓国はジュニア世代（U-21）が参加しており、格上との対戦であったがこの一戦に強い想いを寄せていた選手から悔し涙が流れた。チャレンジさせて頂いた経験を糧に、次戦は必ず宿敵から勝利をものにすることを決意した。今大会のベスト７に日本から田里亮稀が選ばれた。

［個人得点］安平：６点、小澤・伊舎堂：３点、康本・田里・山本・川上：２点、大谷・清家・山田：１点

戦　評

女　子

■6月24日（水）

日本　35（17-7, 18-5）12　香港

中国香港との初戦。日本は前半10分まで左45°高杉、センター河原畑のディスタンスシュート、ポスト谷、左サイド團の速攻、右サイド藤田のサイドシュート、右45°奥田のカットインシュートで加点。対する中国香港はエースLeung TszHinを軸にサイド、ポストでのシュートチャンスを作って加点し、6対5。中国香港の右サイドLamwaiyuが得点した前半11分過ぎまでは一進一退のシーソーゲームだったが、その後、中国香港はミスを連発。また、左45°山本が粘り強い1対1で中国香港の退場を誘い、そこから團、近藤、山口、藤田のサイド陣が速攻で加点し、日本は一気に点差を広げた。前半終了間際まで約20分間、日本は中国香港に得点を許さず、17対7で前半を終了。

後半は15分過ぎまで、日本の堅いディフェンスに対して攻めあぐねた中国香港は、苦しい状況からディスタンスシュートを打つ場面が多くなり、なかなか得点することができない。一方、日本は左サイド眞方、近藤両選手の連続得点で着実に加点。後半15分以降は中国香港のミスが増え、日本はポスト牧岡などの速攻でさらに点差を広げ、35対12で中国香港に勝利した。

［個人得点］近藤・團：5点、谷・藤田：4点、奥田・山口・眞方：3点、河原畑・牧岡・山本：2点、高杉・斗米：1点

■6月25日（木）

日本　24（11-16, 13-17）33　韓国

日本のスタートメンバーは左サイド團、左45°山本、センター河原畑、右45°奥田、右サイド藤田、ポスト谷、GK岩見。序盤は韓国の低めの6-0防御に対して山本のロングシュート、藤田、團のサイドシュートで加点し、日本がリード。すかさず、韓国は3-2-1防御に切り替え、日本のボール回しにプレッシャーをかけ始めた。その間、ミスが出た日本は韓国に速攻を許し、10分過ぎに逆転される。日本はタイムアウトをとり、3-2-1防御に対しての戦術を確認。センター斗米が冷静にゲームメイクし、ポスト谷、サイド團、藤田のシュートチャンスを作った。日本は韓国の得点源の左サイドKimSeongeun、左45° HurYoujinの2選手を厚く守り、韓国のセットオフェンスの得点を抑えることには成功したが、日本のセットオフェンスでのミスを着実に速攻に繋げた韓国が前半をリードし、11対16で終了した。

後半に入り、日本は藤田がサイドから跳び込み連続得点。韓国の退場者が2名の場面で日本は加点するも、その後、韓国のエースHurYoujinにカットイン、ミドルシュート、そして彼女からのポストGim Boeunへアシストされて失点するなど、なかなか点差が狭まらない。後半10分過ぎから藤田の速攻、澤井のロングシュート、河原畑のカットイン、ステップシュートで波に乗ったと思われた日本だったが、後半20分以降、韓国のKimDayoungにカットイン、速攻などで連続得点、さらに左腕のルーキーYang Saeseulにロングシュートを決められ、最終スコア24対33で日本は韓国に悔しい敗戦を喫した。

［個人得点］藤田：9点、河原畑：5点、谷：4点、澤井：2点、團・斗米・奥田・山本：1点

■6月26日（金）

日本　22（9-12, 13-7）19　チャイニーズタイペイ

日本のスタートメンバーは左サイド團、左45°山本、センター河原畑、右45°奥田、右サイド藤田、ポスト谷、GK神谷。台湾はChiuPei-wenの強い突破力を起点に、左45° ShihWei-juがディスタンスシュートを狙う。スピードある台湾の攻撃に受け身気味になった日本。ライン際のポスト、カットインなどで台湾は得点を重ねた。激しい接触をしてくる3-2-1防御に対して、得点チャンスを作れない日本。山本、河原畑のディスタンスシュートで10分過ぎに3対5。そこで日本はタイムアウトを要求。タイムアウト後、攻撃のリズムが良くなった日本はカットイン、ポスト、速攻など絶好の得点チャンスを連続して迎える。しかし、台湾のGK、HuangWei-jungの好セーブに阻まれ、苦しい時間帯が22分過ぎまで続いた。なんとかして点差を縮めて前半を終えたい日本。台湾エースのミドルシュート、カットインシュートをGK神谷が好セーブ。流れを日本に呼び戻した。そこから、奥田、藤田が速攻、山本がカットインで加点。前半を9対12で終了した。

後半に入ると、右45°山口の1対1からセンター斗米がパスをさばいてシュートチャンスを作り、一方、ディフェンスではGK神谷が後半も好セーブを連発。日本は後半15分過ぎにこの試合で初のリードを奪う。焦りが見える台湾はミスが増え、日本は斗米、近藤らの速攻で得点を重ねて台湾を突き放した。最終スコア22対19で台湾に勝利した。

［個人得点］近藤:5点、奥田·山本:4点、谷:3点、藤田·斗米:2点、河原畑・山口：1点

■6月28日（日）

日本　30（17-7, 13-14）21　中国

日本のスローオフからスタートした。中国のディスタンスシュートを奥田、山本らがブロックし、防御が堅い日本。河原畑、藤田、團らの速攻で前半15分までに9対4とリードを広げた。中国はここまでに2度のタイムアウトを請求するがなかなか得点することができない。前半15分以降も左サイド近藤の速攻、そして、中国の5-1防御に対し、河原畑、斗米らが1対1で突破するなどして点差を広げていき、前半を17対7で終了した。

後半に入り、左45°山本が中国の防御を引きずりながら突破。貴重な得点と数的に有利な状況を日本にもたらした。しかしながら、日本はこの時間帯にシュートミス、さらに防御では下がって受けたポストの1対1で退場。その後、攻撃の足が止まった日本は、シュートチャンスを作るもののシュートを決めきることができない。一方、波に乗った中国は、Wポストに移行して、ポストシュートで連続得点。後半の5分から13分までに連続5得点を挙げた。中国が徐々に追い上げてきたが、15分過ぎからは中国の選手たちに疲れが見え始め、中国のエースWangTong-yuがディスタンスシュートを打ってくるだけの単調な攻撃になった。体力的に勝る日本は、左45°山本がカットイン、サイド近藤がポストへ走り込んでシュート、センター村松がディスタンスシュート、村松からポスト谷へのアシストなどで得点を重ねた。また、後半ラスト5分、攻撃に入った澤井がカットインで2連続得点。日本は前半の点差をそのまま維持し、30対21で中国に勝利した。

［個人得点］谷·近藤:5点、團:4点、川原畑:3点、藤田·斗米·奥田・山本・澤井：2点、高杉・眞方・村松：1点

帯同報告

トレーナー　大岡恒雄
マッターホルンリハビリテーション病院

今回、台湾・台北で開催された第３回U-22 東アジア選手権に男子チームトレーナーとして帯同させていただきました。私は６月 21 日の直前合宿３日目よりチームに合流しましたが、合宿前より元々別メニュー調整をしていた１名の選手を除き、けが人や体調不良者を多く抱えることなく大会に臨むことができました。

大会前には韓国で中東呼吸器症候群（MERS）が発生していたことから、事前に内記監督や大西ドクターと相談し、選手・スタッフに空港や機内ではマスクを装着するように促しました。本大会が開催された６月の台北の気候は、平均最高気温は 36 度前後、湿度も 80％近くあり熱中症の発生に注意を払いました。今大会では準優勝という結果を残すことができましたが、大会を通じて熱中症や感染症の発生、外傷や体調不良による試合欠場者が出なかったことはトレーナーとして非常に嬉しかったです。

昨年ヨルダンで行われた男子ユースアジア選手権では、骨折、下痢、口内炎等が生じた選手がいました。今大会ではホテルの食事にストレスを感じることは少なく、試合では大会側からミネラルウォーターやスポーツドリンクの提供もありました。ホテル近隣にはコンビニが多くあり補食の調達も容易でした。結果として、選手は体重減少等がなく試合に良い状態で出場することができたのではないかと思います。また、選手にけが人が少なかったこととして、昨年のチーム結成時より北林コーチと取り組んできた朝の調整やウォーミングアップ・クールダウンでの股関節や肩甲帯の柔軟性や機能性を高めるトレーニングを継続した成果もあったのではないかと感じました。８月にあるロシアでの世界選手権でも、選手がより良いコンディションで大会に臨めるよう尽力していきたいと思います。

試合前の補食

ホテル傍にある公園での朝の調整

最後になりましたが、本大会をサポートしてくださいました日本ハンドボール協会の皆様をはじめ、選手の所属チームの関係者の方々、そしてチームスタッフである志々場団長、内記監督、北林コーチ、所コーチ、大西ドクターに心より感謝申し上げます。直前合宿で私が不在の間帯同にご協力いただいた村田博明トレーナー、島俊也トレーナーにも心より御礼申し上げます。

トレーナー　花岡美智子
公益財団法人日本ハンドボール協会

６月 23 日～６月 29 日の期間に開催されました第３回 U-22 東アジア選手権に女子チームのトレーナーとして帯同させていただきました。今回は、トレーナーの立場より、今大会の報告をさせていただきます。

本大会に出場するチームは６月 19 日に日本体育大学に集合し、出発直前の国内合宿を実施しました。短い準備期間を経て、21 日、羽田空港から台北へと移動しました。移動時間も短く体調を崩すことはありませんでしたが、台湾の気候は日本以上に「高温多湿」。この環境への対応がまず重要でした。日中は 35 度を超える暑さに加え、時にゲリラ豪雨のような集中的な雨によって湿度が高く、立っているだけでも汗が流れる程の環境でした。一方で、室内はクーラーが 15 度程度に設定されるほど冷えており、出発時の気温の低い日本との環境の違いに、体調を崩さないよう注意していきました。現地では、ドクターから水分補給に関するアドバイスを受けたり、体重を朝晩チェックしたりすることで、体調を崩す選手も出ず、全員が良い状態で試合に臨み最終日まで終えることが出来ました。また試合中の怪我も、大きな怪我はほとんど見られずスタッフ・選手全員元気に帰国することが出来ました。

今回の帯同で感じたことは、若い世代においても、慢性的な疲労や傷害を抱える選手は多いということです。その選手たちが今後、アジア・世界へと勝負を挑んでいくにあたり、コンディショニングの要素は極めて重要になると感じました。栄養や水分補給、怪我の知識、セルフケアの方法、弱点補強のためのトレーニング処方など、傷害予防も含め、選手自身に気づきを与えるような活動も必要であると感じました。

最後に、本大会一緒に活動させていただきました志々場団長はじめスタッフ・選手の皆さん、関係者の皆様、そして現地で誠心誠意チームに尽くしてくれたチーム係、協力・ご支援いただきました皆様にお礼申し上げ、報告とさせていただきます。

ドクター　大西信三
公益財団法人日本ハンドボール協会

今回の U-22 東アジア選手権は、８月にロシアで開催される男子世界ユース選手権、同じく８月にカザフスタンで開催される女子アジアユース選手権へ向けての調整も兼ねた大会であり、女子チームのスタッフとして登録されましたが、実際には男子・女子、２チームのドクターとして帯同させていただきました。

【現地入りまで】

男子・女子とも事前合宿を行っており、６月 22 日に日本を発ちました。団長・監督・コーチと女子チームが大会運営会議に参加のため先行し、男子チームと共にフライトとなりました。羽田→松山（台北）まで約 3.5 時間で、時差は１時間、さらに ANA でのフライトだったので映画や音楽鑑賞も可能であっという間の到着でした。現地でのガイドの方は、日本生まれ（親が日本人）の台湾育ちという経歴で、日本語も流暢で大会を通して非常にコミュニケーションが取りやすく助かりました。中東呼吸器症候群（MERS）の対策として、空港では全員マスク着用としました。

松山空港（台北）にて。MERS 対策にマスク着用。

【現地環境】

台北は気温が連日 35℃を超えるような陽気で湿度が高く、逆にホテルは冷房が効

きすぎており、屋外と屋内の差が顕著でした。練習会場は徒歩 10 分程度の高校で、体育館は５階にあり、階段使用するため移動で少々汗をかきました。練習会場には冷房設備はありませんでしたが、午前中早い時間帯での練習が多く、それほど暑さに苦しまずにすみました。クーラーボックスに氷と水が用意されており、飲料の持ち運びも最小限でした。熱中症が心配でしたが、筋肉のこむら返りを起こすような選手もおりませんでした。

とはいいましても汗はかくので洗濯物は多くでます。今回はホテルでの衣類クリーニングのサービスが無く、部屋では洗濯物が乾きにくかったため（スポーツタオルなどは１日では乾かない）、必要に応じて歩いて数分のコインランドリーを利用しました。選手の負担を減らすためそういったサービスを提供してくれるホテルを大会側が選んでくれれば…というのは高望みでしょうか。

練習体育館内部

【食事】

ビュッフェ形式でのホテル食となりましたがバラエティにも富んでおり、野菜・果実類、デザートも安心して食べられ、胃腸炎となり整腸剤が必要になった選手は皆無でした。台湾独特な匂いや味がする料理もありましたが、食環境はおおむね問題ありませんでした。ホテルの隣にはセブンイレブンがあり、ポカリスエットやカルピスなど日本発の飲料も多く販売されていて、選手たちは適宜好きなものを購入していました。

【移動・試合会場】

会場まで 15 分程バスでの移動でした。２チーム同時に乗車するような大型バスで１・２回遅れるようなこともありましたがほぼ定刻の配車でストレスは感じませんでした。1 試合目で会場に到着した際に照明・冷房がまだ準備されていなかったりしましたが、日程が進むにつれてそのような不備も減っていきました。試合会場の体育館は綺麗で、音楽も試合の合間やハーフタイムに流れる（日本の曲が流れることもありました）といった感じです。ベンチの裏にはポカリスエットが用意されており、ドリンク作成の手間もありませんでした。

【外傷・疾病・医事活動】

女子チームにはミーティングにて熱中症・スポーツ時の正しい水分補給に関して話をすることができました。食事がよかったのもありますが、大岡・花岡トレーナーのしっかりとした管理もあって目立った体重変動はありませんでした。試合での外傷は、前半終盤に相手選手との接触による口唇裂創を受傷し、止血のため一時ベンチに下がる症例がありましたが、後半にはプレー復帰可能でした。病院受診が必要な外傷は発生せず、その他は大会前から抱えている障害がほとんどでした。診察所見のみでの判断でしたが、右肩インピンジメント（挟まり込み）による腱板炎が疑われ、肩関節注射（肩峰下へ麻酔薬とステロイド）を１名に行いましたが、その後痛みは改善し、大会期間中試合出場可能でした。腰椎分離症、仙腸関節炎等のオーバーユースや、打撲傷等は練習・試合時の鎮痛剤使用やトレーナーによる処置・テーピングでこちらも試合出場可能でした。疾病に関しては３名口内炎となり、前回帯同時（男子ユースアジア選手権 in ヨルダン）にも多かったため今回は口内炎用の軟膏を持参したのが役立ちました。

試合中の水分補給に経口水分補給剤であるOS1を使った者もいましたが、今後OS1 使用した場合の試合前後の体重変化と、使用しなかった場合の体重変化の比較してみるのも良いかと考えております。

【全体を通して】

大きなトラブルなく、ホテルでは Wi-Fi も使用でき、男子は連絡を LINE グループで、女子はミーティング＋監督の部屋のドアに予定表を貼り出すことで行いました。男子は忘れ物が多く、バタバタとした印象、女子は忘れ物はせず、連絡も行き届いて大きな心配をせさられることはありませんが、仕事分担をせず全員で行動しがちな印象があり、男女チームの帯同をすることで行動パターンの違いを多く気付かされ、なかなかできない経験をさせていただいたと思います。前回帯同時にお世話になった志々場団長、内記監督、北林コーチ、大岡トレーナーに所コーチが加わり、男子チームのスタッフはかなりの安定感がありました。女子チームの辻監督とはホテル同室で滞在させていただき、色々なお話を聞けて何にも勝る貴重な時間でした。自分が筑波大学ハンドボール部で活動していた際に、女子部の１学年上級であった山田コーチ、さらにはその頃筑波大学女子チームのトレーナーをされていた花岡トレーナーと共に働けたことも嬉しい出来事でした。男女選手ともドクターとしてあまり関わる機会がなくて幸い？でしたが、合宿から参加できればもう少しコミュニケーションがとれたか、と思います。本業の都合がもっとつけられれば、と思いますが…一番難しい問題でしょうか。８月のロシア世界ユースでの帯同も決まり、より良いサポートに心がけたいと思います。女子は残念ながら帯同できませんが、同じく８月のカザフスタンでのアジア選手権で良い結果と大きな外傷等ないことを祈っております。

審判報告

村田 哲郎・明木　源

今回の大会は、私達ペアにとって初の正式な国際大会で推薦していただいた時は、技術面や英会話面で不安でいっぱいでしたが、嬉しさと興奮が一番高まりました。大会初日では、お互いに緊張をしている中で臨み、今までにない体格のプレーヤー同士のハードコンタクトのジャッジやTD・オフィシャル、各チーム方々とのコミュニケーション取ることが難問でした。ペアとしては、お互いを励ましあいながら毎試合に臨みました。また技術的な面では罰則基準の一定さ（一発２分間退場のプレー、一発レッドのプレーの見分け）や、ペア間での笛を吹く量をある程度均一にすること、CR・GR時での位置取り、ジェスチャーの使い方、インフォメーションなど多くの課題が見つかりました。今大会に参加された他国のレフェリーやTD、役員の方々から高評価を頂き、初の国際試合としては、自分たちなりに満足のできる国際大会となりました。今大会には、日本チームの団長として高校の恩師である志々場先生も来られており、初の国際大会で現段階の私たちペアのレフェリングをお見せすることもできました。

コミュニケーションの部分では、まだまだだと思いました。試合中はともかく、ホテルや食事会などで各国の方々との会話でかみ合わないことが多少あり、英会話力の重要性を実感でき、新たな課題が見つかりました。大会期間中は、２人で試合中の様にフォローし合い、分かる部分はお互いに助け合い乗り切ることができましたが、レフェリーの技術面や語学面の両方をもっと磨かなければと思います。

今後はもっと様々な国内の試合や国際大会に参加させていただけたらと思っております。数多くの試合をもっとペアで吹笛し、経験を積み重ね、国際レフェリーの資格を取得したいと思っております。2019年には熊本で女子世界選手権、2020年には東京オリンピックが開催されます。日頃ご指導して下さっている方々や今までお世話になった恩師のためにも、必ずインターナショナルレフェリーの資格を取得したいと思います。また参加する大会のファイナルゲームのレフェリーにふさわしい審判になることを目標とし今後もペアで頑張っていこうと思っています。

また今大会では試合以外にも、各国のおもてなしや文化、その国の食べ物、様々なことを知る機会にもなりました。レセプションパーティーでは台湾料理、乾杯の方法、挨拶の際にする握手のやり方、初めてなことなど様々ことを学ばせていただきました。また、その日は中国レフェリーの誕生日でもあり、みんなでお祝いをし、親交を深めると共に楽しいひと時を送らせていただきました。私達ペアは23歳と20歳で一番若かったこともあり、ムードメーカーのようにいじられ、特に明木がいじられ、村田は年齢が一番若かったので可愛がられる存在でした。

大会期間中の休息日には、台湾の観光地などにも行かせていただくことができました。午前は、地元の台湾のレフェリーと一緒に市場で台湾ならではのマンゴーやタピオカ、お茶、台湾ビールなどを味わい、アウトレットでショッピングをしたり、午後は日本男女チームと一緒にジブリ映画で有名な千と千尋のモチーフとなったといわれる九份という観光地に行きました。夜は屋台街と台北101というタワーにいき、きれいな夜景を楽しませていただきました。

今大会では多くのことで驚くことがありました。韓国レフェリーは携帯用コチュジャンを持ち歩くということです。チームも持参で炊飯器とキムチやカップ麺を持参していました。その他では、日本チーム以外の選手のファッション・身だしなみ・規則はほぼ自由だということも思いました。各国の文化、規則をこのようなかたちで経験できることは無いと思います。

担当試合のない日も各国のレフェリーのジャッジを見て、ジェスチャーやレフェリーの動き、位置取りなどを勉強し、また他国のレフェリーと意見交換をしながら試合を見ることで他国のレフェリングや試合中のコミュニケーションの取り方など、私達のレベルアップになったのではないかと思います。

毎日、審判控え室などで様々なレフェリーや役員の方々とお話をしていると、台湾のレフェリーは３年前に一度、福岡県で開催されたサニックスカップに参加されており、私たちペアも参加させていただいた大会に来られていたという驚く話や、中国のTDの方は、昔は日本でレフェリーをしたことがあり、日本語が上手く様々な思い出話などをしてくださり、盛り上がりました。

今大会を通して多くのことを学び、課題を見つけ、様々な方々とコミュニケーションをとり、いい経験になったと共に、いい思い出になりました。この経験を活かし必ず国際レフェリーの資格を絶対にペアで取得しようと思っています。

第20回 ヒロシマ国際ハンドボール大会

The 20th HIROSHIMA INTERNATIONAL GAMES

開催期日：平成27年6月26日（金）～28日（日）
会　　場：広島市中区スポーツセンター

《最終順位》
優勝：日本代表
２位：SK オーフス（デンマーク）
３位：広島メイプルレッズ
４位：中国代表

《個人表彰》
最優秀選手　横嶋かおる（日本代表）
優秀選手　池原綾香（日本代表）
ニールセン・アン・ソフィー・ヨート（SK オーフス）
笠木美希（広島メイプルレッズ）
リ・シャオチン（中国代表）

星取表		JPN	SK Aarth	maple	CHN	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	日本代表 (JPN)		27○22	18○14	30○28	3	3-0-0	75	64	11	6
2位	SK オーフス (SK Aarhus)	22●27		26○20	31△31	3	1-1-1	79	78	1	3
3位	広島メイプルレッズ (maple)	14●18	20●26		26○24	3	1-0-2	60	68	-8	2
4位	中国代表 (CHN)	28●30	31△31	24●26		3	0-1-2	83	87	-4	1

女子日本代表

役職	名前	所属
強化委員長	田口　隆	公益財団法人日本ハンドボール協会
監督	栗山　雅倫	公益財団法人日本ハンドボール協会
コーチ	大森　聡	公益財団法人日本ハンドボール協会
トレーナー	高野内俊也	公益財団法人日本ハンドボール協会
GK コーチ	勝田　祥子	公益財団法人日本ハンドボール協会
分析	小笠原一生	公益財団法人日本ハンドボール協会
背番号	名前	所属
1	飛田季実子	ソニーセミコンダクタ
3	本多　恵	ソニーセミコンダクタ
5	田中美音子	ソニーセミコンダクタ
6	石野実加子	北國銀行
9	横嶋かおる	北國銀行
14	横嶋　彩	北國銀行
15	角南　唯	北國銀行
16	白石　さと	オムロン
17	東濱　裕子	オムロン
18	田邉　夕貴	フェヘールバール（ハンガリー）
19	池原　綾香	三重バイオレットアイリス
20	石立真悠子	フェヘールバール（ハンガリー）
22	藤間かおり	オムロン
24	原　希美	三重バイオレットアイリス
26	川村　杏奈	ソニーセミコンダクタ
27	塩田　沙代	北國銀行
28	永田しおり	オムロン
29	松村　杏里	広島メイプルレッズ

第20回ヒロシマ国際ハンドボール大会を終えて

広島県ハンドボール協会副会長　山本　一

1994年の第12回広島アジア大会のメモリアル大会として翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会も今年で20回目の記念大会を迎えました（2003年はSARS騒動のため中止）。例年は7月の最終週に行っていた大会ですが、今年はリオデジャネイロオリンピックアジア予選を秋に控え、強化練習、ヨーロッパ遠征等のスケジュールもあり昨年に引き続き6月の開催となりました。

今年は女子の大会でヨーロッパからオリンピック、世界選手権の上位常連国のデンマークからSKオーフス、アジアから中国代表、地元広島から広島メイプルレッズに日本代表を加えた4チームのリーグ戦を行いました。大会初日の6月25日には審判会議、代表者会議に引き続きデンマークと切っても切れない関係にあり、パーティーは日本の名誉領事館でもある広島アンデルセンのウェルカムパーティーで始まりました。松井一實広島市長、加藤義明広島県体育協会会長、山根恒弘広島市スポーツ協会会長、岡谷義則中国新聞社長をはじめ多くの来賓者を迎え、RCCスポーツアナウンサーの坂

上俊次氏の司会で行われました。試合を明日に控えた各チーム役員、選手達も和気あいあいのうちに料理に舌鼓をうっていました。

試合結果、表彰選手は前頁の通りですが、秋にリオ五輪アジア予選を控えたおりひめジャパンにとって今大会を強化の一環として有効に活用し成果を出して欲しいと願っています。

大会を終えて、一週間も経たないうちに中国ハンドボール協会から 10 月の名古屋でのオリンピックアジア予選の前に広島で事前合宿の申し入れがありましたが、これも広島と中国との絆の証ではと思っています。

最後に大会を開催するにあたり、広島県、広島市をはじめ各方面から多大のご支援ご協力をいただいたことに深く感謝いたします。また今大会も全ゲームをネット配信して下さった湧永製薬㈱には改めてお礼申し上げます。

ヒロシマ国際大会を終えて
おりひめジャパン監督　栗山 雅倫

今年度のヒロシマ国際大会は、10 月に控える名古屋市でのオリンピックアジア地区予選に向けて、格好のシミュレーションの場となりました。日本国内でオリンピック予選が開催されることは、間違いなく "おりひめジャパン" にとって最大の後押しとなります。しかしその一方で、国外での戦いにはない緊張感と向き合うことになり、その感覚を是が非でも味わっておきたいと感じていたチームにとって、かけがえの無い経験となりました。

大会に入る直前、世界最高峰のデンマークトップリーグの強豪チーム、SK オーフスとの親善試合を愛知県で 2 試合、さらにその前には味の素ナショナルトレーニングセンターにて、同じく SK オーフスと合同合宿を組ませて頂きました。これらの事業は、日本スポーツ振興センターの "女性競技種目戦略的強化プログラム" として展開されました。現在ハンドボールは、数少ない同プロジェクトの対象種目となっており、センターからは多大な支援を頂戴致しております。今回の事業においては、女性指導者及び女性を指導する指導者に向けた研修も展開して頂き、多くの意味で非常に有意義な機会となりました。

大会では、SK オーフス、中国代表、そして地元広島メイプルレッズとの 3 試合を経験させて頂きました。それぞれ異なるタイプのチームに対し、様々なメンバー構成で戦わせて頂き、それぞれ明確な課題を得ることが出来たことが何よりの収穫であると感じています。オリンピック予選では、短期間集中の戦いとなるため、少しでも幅広いメンバーで、質の変わらないゲーム展開が出来ることが重要となると考えております。したがって、このような場での経験と、そこから得られた課題に基づく今後の取組こそが、おりひめジャパンにとっての必要不可欠な活動となると確信しています。

大会での結果、3 戦全勝で優勝させて頂くことが出来ましたことは、単なる経験ではなく、手応えをともなう経験をさせて頂くことが出来と感じています。中国代表とは、本番での負けられない戦いが控えており、難しい戦い方となりましたが、その中でも粘り強く戦うことが出来たのは、今後のおりひめジャパンの活動にとって大きな励みとなりました。

大会期間、あるいはこれらの企画展開が開始されて以降、関係者の皆様方には多大なるご尽力を頂戴致しました。チームを代表して、深く感謝申し上げます。また、チームはすでに予選に向けてのラストスパートに入っており、おりひめジャパンは、日々最大限の努力を尽くしております。40 年来の悲願を達成する為に、チームとしてすべてを尽くす所存です。是非とも皆様方の熱いエールで、他には変えられない最後の一押しをして頂ければ幸いです。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

4点共　写真提供：スポーツイベント

ヒロシマ国際大会を振り返って

おりひめジャパン　池原 綾香

今回のヒロシマ国際大会は、間近に迫る国内開催のオリンピック予選に向けて、絶好の経験の場として位置づけられました。そんな中、無事全勝優勝を果たすことが出来たのは、一つのステップをしっかりと踏まえることが出来たと思います。大会に際し、ご尽力を頂いた皆さんに心より御礼申し上げます。

大会前、私たちは欧州遠征や国内での強化合宿の機会を頂きました。私にとって、今回の機会は代表選手として久々であり、不安もありましたが、二番手の選手ではなく、レギュラーとしてオリンピックへの切符を獲得する中心選手になるという強い意気込みを持って臨みました。そして欧州遠征ではこれまでに無い強い意志でゲームに臨むことが出来、自身がアピールポイントとしたい、シュートを迷うこと無く打つことが出来たと思います。そんな手応えとともに、ヒロシマ国際大会を迎えることが出来ました。

いよいよ大会に入り、1年もの間チームを離れた私は、なんとしてもアピールしたい思いであふれていました。中国戦では、スタートから出場機会を得て、小さいけれど大きい相手に何が出来るかが挑める試合だし、自分にとっては大きなチャンスでした。この試合で思い切りシュートを打つことが出来たのは、今後の代表選手生活に大きな意味を持つと感じています。また、この大会で優秀選手賞を頂いたことは、大変な驚きであると同時に、社会人になって初めての個人タイトルが、代表選手として頂けたものなので、大きな励みとなりました。

欧州遠征を含め、正直な感想としては緊張の毎日でした。しかし、過去にとらわれず、前を向いて臨もうと決めた今、迷いは無くなりました。オリンピック予選まであと僅か、皆様のご声援とともに、最高の結果を出したいと思います。

帯同報告

第20回ヒロシマ国際ハンドボール大会を終えて
―おりひめジャパンの身体づくり―

女子代表チームトレーナー　高野内 俊也

【はじめに】

6月26日～28日に開催されたヒロシマ国際ハンドボール大会に、日本代表女子チーム「おりひめジャパン」のトレーナーとして帯同をさせていただきました。

当該報告は、ヒロシマ国際大会の報告を含め、今年度4月の国内合宿、5月のハンガリー欧州遠征、国内強化合宿、名古屋・豊橋での国際強化試合を通じたおりひめジャパンの身体作りを中心にご報告をさせていただきたいと思います。

【おりひめジャパンの身体作り】

おりひめジャパンの誕生時に栗山監督がこのチームのコンセプトとして掲げたのが「TOTAL MOBILITY」でありました。おりひめジャパンの身体作りは、この「TOTAL MOBILITY」の遂行・向上のために必要なフィジカルベースづくりが第一の目的となっています。傷害予防・管理のみならず、世界に比べて小さな身体を苦にせず戦うベースづくり、そして高いスキルにつながる身体作りを目指しています。

具体的には一試合・一大会を通してパフォーマンスを発揮するために、スピードの持久力・コンタクトフィットネス・個々のスキルベースを高めることをチームのフィジカルコンセプトとして強化に取り組んできています。

まずはすべてのベース作りとして、股関節の柔軟性を高め股関節伸展におけるパワー発揮、そしてハードなコンタクトに負けないための下肢強化・立位での体幹強化・JOINT強化を行ってきています。

スピードの持久力強化については毎合宿において、シャトルランを一定のインターバルタイムで実施しターンスピードと回復力を測定・強化しゲーム終盤のスタミナ強化につなげています。

コンタクトフィットネスについては数値で定量化することが難しいですが、股関節伸展パワーを強化し、低く強く相手にダメージを与えるコンタクト練習を行い実践につながるように工夫しています。

スキルのベースとしては、監督・選手と会話し機動性の高いDFにマッチしたフットワーク、狭いスペースに飛び込むためのSTEPやシュート局面において負荷をかけたトレーニングさらに日本人が弱いとされる上半身に特化した強化とシュート練習を連動し強化を行ってきています。

それぞれの強化が国際強化試合、そしてヒロシマ国際の局面で発揮できつつあると感じています。

【国際強化試合・ヒロシマ国際における選手の状況】

欧州遠征、国内合宿と継続的に強化が進む中、選手はポジティブにトレーニングに励んでいます。その成果が6月23、24日に行われた国際強化試合ならびにヒロシマ国際においても、欧州そして中国の選手に臆することなくコンタクト・スキル発揮が行えていたと感じています。ただ、オリンピック予選に向けてはさらなるフィットネス向上が必要であり、最後まで高いフィットネスレベルを追求していきたいと考えています。

傷害状況としては、大きな怪我はなく日々のコンディショニング・トリートメントを継続し身体の状態を維持していますが、今後も傷害の予防につながるトレーニング、ケアをしっかりと実践していきたいと思います。

また、5月の欧州遠征より味の素ビクトリープロジェクトにご協力を得て、定期的な栄養指導とサプリメントサポートをいただき、身体作り・コンデイションづくりがより有効なものとなっています。このサポートにより鍛錬期においても体重の下降なく体調維持・向上ができていることは傷害予防にもつながっていることを実感しています。

今回、ヒロシマ国際に参加した4チームのうち、SKオーフスの平均身長は178.2㎝、中国の平均身長は179.0㎝、そして日本の平均身長は167.2㎝でありました。平均身長で12㎝の差があるこの2チームに日本が勝つためには体格の不利は否めません。ただ、日本の機動性の高い攻守は、各国の脅威となっていると前回世界選手権大会HPでも報じられています。日本人は低さが武器であると感じています。10月の予選までおりひめジャパンの身体作りを継続して実践し結果につながるように尽力していきたいと思っています。

【最後に】

名古屋・豊橋での国際強化試合においては、JSCの女性アスリート強化支援の多大なるサポートをいただき、試合後には地域の子供達の講習会、指導者講習会、そしてトレーナーを目指す方への講習会も開催されました。選手・スタッフとも大変有意義な時間となりました。個人的にはこれからトレーナーになろうと学んでいる学生の方々との会話は非常に新鮮で身の引き締まる思いです。既成概念にとらわれず、継承すべき伝統と進化すべき知見を見極めて、悲願のオリンピック出場に向けて尽力していきたいと考えています。

最後に国際強化試合ならびにヒロシマ国際大会の準備に関わったみなさまにはこの場をお借りして御礼を申しあげます。

戦　評

■6月26日（金）
日本代表　18（10－6, 8－8）14　広島メイプルレッズ
オリンピック予選に向けて充実の日本代表と新生メイプルレッズの一戦、総合力で勝る日本代表に対して、メイプルはディフェンスで粘りを見せ、前半13分まで3対4と互角の戦い。日本代表の高いディフェンスを崩せないメイプルに対して、畳み掛けたい日本代表だが攻撃がかみ合わず、得点が伸びない。19分まで4対5と1点リードにとどまる。徐々に力の差を見せるも10対6と4点差のリードで日本代表が折り返した。
後半に入り、メイプルの退場を機に、日本代表はすかさず加点、2点を加え12対6として、リードを広げる。ここから一気に行きたい日本代表だが、メイプルも少ないチャンスをものにして食らいつき、13分まで10対15と5点差とする。中盤以降もディフェンスで踏ん張るメイプルは粘りを見せ、徐々に差を詰め25分まで13対17と4点差に。日本代表は最後まで決め手を欠くも、GK藤間の好セーブもあり、18対14で逃げ切り、初戦を飾った。メイプルは再三の好機を逃したものの、両GK毛利・板野がしのぎ、惜敗となった。
[日本代表] 横嶋（彩）:8点、角南:3点、塩田:2点、本多・田邉・川村・永田・松村：1点

■6月27日（土）
SKオーフス　26（13－10, 13－10）20　広島メイプルレッズ
メイプルレッズのスローオフで始まったこの試合、立ち上がりからSKオーフスは体格差を十分に生かした攻撃を仕掛ける。メイプルは、序盤、相手の大型ディフェンスに萎縮してかキャッチミスなど単純なミスが続き、得点を伸ばせなかったが、懸命なディフェンスと隙をついたブラインドシュートなどに活路を見出し、徐々に得点差を詰めることに成功した。その後も長身を生かしたポストプレーなどで引き離そうとするオーフスに対し、全員で守って走るメイプルが追いかけるという展開が続き、前半をオーフスが13対10の3点リードで折り返した。
後半立ち上がり、前半終了間際のオーフスの退場につけ込みたいメイプルだったが、相手の間に割り込むプレーに対する反則で逆に退場者を出してしまい、一気に6点差まで差を広げられてしまった。7分過ぎ7点差となってたまらずチームタイムアウトを要求し、立て直しを図るが、直後に得た2本の7mスローを連続してはずすなどなかなか波に乗ることが出来なかった。その後もオーフスの攻勢が続き、気が付けば11点のビハインドとなったが、メイプルも地元の大声援を受け、最後まで試合を捨てることなく頑張りをみせ、26対20の6点差で試合が終了した。
[個人得点] 笠木：8点、木田：5点、真継・加須屋：2点、角屋・門谷・高山：1点

日本代表　30（14－13, 16－15）28　中国代表
出だし中国は日本のシュートミスを速攻でつなぎ先取点を奪う。その後も中国はスピードと体格差を生かした攻撃を仕掛け、試合を優位に進める。日本は、序盤、前が空いているにもかかわらず積極的にシュートが狙えなかったが、次第に堅さが取れ、10分過ぎからは池原のサイドシュートと東濱のロングシュートが決まり4対4に追いつく。その後は両チームともシュートミスが続きロースコアの展開になる。日本は高いディフェンスラインを引き体格差をカバーしようと懸命に守り20分までは常に1点差でついていく。しかし、中国は立て続けに2人の退場者が出たピンチも、落ち着いてクロスを多用し得点を奪い中々リードを渡さない。それでも日本は粘り27分過ぎには池原のサイドシュートで一時リードを奪う。その後同点に追いつかれたが前半終了間際にタイムアウトからセット攻撃を仕掛けこれを池原が落ち着いて決め14対13の日本1点リードで前半を折り返す。
試合の流れはやや日本に傾きかけたが後半出だしから中国は速攻が決まり5分過ぎに18対15の3点差にする。日本はたまらずタイムアウトを取り流れを引き戻そうとするが中国の走り込みのパワーにディフェンスが耐え切れず点差を詰めることが出来ない。しかし、日本は試合をあきらめず中国の退場に乗じて池原がサイドからループシュートを連続して決め16分に追いつく。その後も手に汗握る一進一退の攻防が続いたが、闘志に勝る日本が30対28で勝利を収めた。
[個人得点] 池原：7点、田邉：6点、角南・東濱・石立：4点、横嶋（か）：3点、石野・松村：1点

■6月28日（日）
広島メイプルレッズ　26（17－10, 9－14）24　中国代表
連敗中のメイプルは、昨日のゲームから好調の7番笠木のシュートで幸先よく先制。序盤はGK毛利の好セーブもあり、6分まで5対1とメイプルが主導権を握る。メイプルは中国の高いディフェンスに対して、素早い動きからのミドルシュートと石田らの速攻で着々と加点、10分まで8対1とする。中国は攻撃がかみ合わず、単発に終始し、苦戦を強いられる。中盤に入ってもメイプルの優位は変わらず、18分まで12対4と8点リード。ここから中国も徐々に盛り返し、7番、20番らの得点で25分まで14対8と6点差まで詰め寄るが、前半17対10とメイプルが7点差で折り返した。
後半に入り、中国の反撃が始まる。15番の得点などで3連取。13対17と4点差に迫る。しかしメイプルも負けじと11番石田がサイドシュート決め、10分まで22対14と再び8点差に引き離す。中盤に入って一進一退の攻防の中で、高いディフェンスに苦しむメイプルに対しじりじりと中国が得点をあげ、20分過ぎには20対23と3点差に。残り5分を切ってメイプルは退場者を出すも、高山のシュートなど攻撃で粘りをみせ、そのまま逃げ切り、26対24で大会初勝利を挙げた。
[個人得点] 笠木：8点、高山：6点、石田：5点、木田・門谷：3点、真継：1点

日本代表　27（13－11, 14－11）22　SKオーフス
最終戦は2勝の日本と1勝1分けのオーフスとの優勝を決める大事な1戦となった。先行したのは7人攻撃を仕掛けるオーフス。日本もすぐさま本多のサイドシュートで追いつく。序盤10分過ぎまでは4対4のイーブンで試合は進んだ。オーフスは7人攻撃を継続して数的優位で得点するもゴールを空にすることで日本の田中に得点を奪われ試合は拮抗したまま中盤を迎える。日本は高いディフェンスラインでオーフスの攻撃のきっかけをつぶし2点差をつけ試合の流れをつかみかけたが、24分に退場によりまたも9対9と追いつかれる。前半終了間際に7mTとタイムアウト後のセットプレーで2点を奪い、13対11の日本2点リードで折り返す。
後半も日本ペースで試合は進み、オーフスの雑な攻めに乗じて得点を重ね12分過ぎには21対15と6点差をつけた。さらに日本はキーパー飛田からの速攻で加点しオーフスに追撃の隙を与えない。結局攻撃の精度の高さに勝る日本が27対22で勝利し全勝で優勝を飾った。
[個人得点] 東濱：5点、石立・原：4点、田中・横嶋（彩）・角南：3点、横嶋（か）：2点、本多・田邉・池原：1点

リオデジャネイロ五輪 ハンドボール競技 女子アジア予選日程

リオデジャネイロオリンピックハンドボール競技女子アジア予選が名古屋で開催されます。

日本代表「おりひめジャパン」が40年振りのオリンピックに出場を狙います。

会場に足を運ぶなど、ご声援お願いいたします。

参加チーム：
日本　韓国　中国　カザフスタン　ウズベキスタン

大会期間：平成27年10月20日(火)～25日(日)
大会会場：愛知県体育館　名古屋市中区二の丸1-1
電話：052-971-2516
最寄り駅：市役所駅から徒歩約5分

日付	時間	チーム
10月20日(火)	17:00	カザフスタン—中国
	19:00	**日本**—ウズベキスタン
10月21日(水)	17:00	韓国—カザフスタン
	19:00	中国—**日本**
10月22日(木)	17:00	中国—韓国
	19:00	ウズベキスタン—カザフスタン
10月24日(土)	16:00※	**日本**—カザフスタン
	18:00※	ウズベキスタン—韓国
10月25日(日)	14:00	ウズベキスタン—中国
	16:00	韓国—**日本**

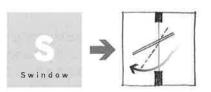
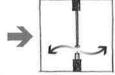
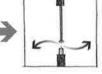
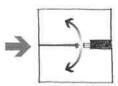
※10月24日(土)の試合時間は調整中の為、変更の可能性あり

第20回ヒロシマ国際大会より（写真提供：スポーツイベント）

会場へ行って「おりひめJAPAN」を応援しよう！

オリンピック出場の歴史的瞬間を現場で声援しよう！

リオデジャネイロ五輪男子アジア予選

大会期間：11月14日(土)～11月27日(金)　　開催地：カタール・ドーハ

2015 Gwangju Summer Universiade

第28回ユニバーシアード競技大会
ハンドボール競技

開催地：韓国・光州
会　場：Naju Indoor Gymnasium, Gochang Country Gymnasium, Gurye Indoor Gymnasium
会　期：2015年7月6日（月）～13日（月）

《最終順位》
【男子】優勝：ポルトガル　準優勝：セルビア　3位：スイス　4位：韓国　5位：イスラエル　6位：ロシア　7位：ブラジル
8位：リトアニア　9位：ハンガリー　10位：トルコ　**11位：日本**　12位：メキシコ　13位：アメリカ
【女子】優勝：ロシア　準優勝：韓国　3位：セルビア　4位：チェコ　5位：ブラジル　6位：ルーマニア　7位：ウクライナ
8位：中国　9位：モンテネグロ　10位：スロバキア　**11位：日本**　12位：ウルグアイ

男子

役職	名前	所属
チームリーダー	松　喜美夫	全日本学生ハンドボール連盟
監督	大城　章	（公財）日本ハンドボール協会
コーチ	横手　健太	（公財）日本ハンドボール協会
技術スタッフ	市村　志朗	（公財）日本ハンドボール協会
トレーナー	永井　正之	全日本学生ハンドボール連盟

No.	名前	所属
1	岩下　祐太	トヨタ紡織九州
2	子安　貴之	湧永製薬
3	田中　大斗	トヨタ紡織九州
4	玉城　慶也	トヨタ車体
5	八巻　雄一	トヨタ紡織九州
6	菅野　純平	トヨタ車体
7	山田　隼也	トヨタ自動車東日本
8	堤　由貴	トヨタ自動車東日本
9	小塩　豪紀	豊田合成
10	内海　祐輔	トヨタ車体
11	杉本　翔	大同特殊鋼
12	村上　凌太	大崎電気
14	酒井　翔一朗	トヨタ紡織九州
15	東江　雄斗	早稲田大学4年
17	橋本　明雄	豊田合成
19	岡本　竜生	中部大学4年

女子

役職	名前	所属
チームリーダー	樫塚　正一	全日本学生ハンドボール連盟
監督	齊藤　慎太郎	（公財）日本ハンドボール協会
コーチ	八尾　泰寛	（公財）日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	（公財）日本ハンドボール協会
トレーナー	佐野　裕美	（公財）日本ハンドボール協会

No.	名前	所属
1	網谷　涼子	ソニーセミコンダクタ
2	安倍　千夏	ソニーセミコンダクタ
3	多田　仁美	三重バイオレットアイリス
4	大山　真奈	北國銀行
5	河嶋　英里	三重バイオレットアイリス
6	田村　美沙紀	筑波大学3年
7	諸岡　世奈	ソニーセミコンダクタ
8	山下　真里奈	オムロン
9	田中　茜	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
10	秋山　なつみ	大阪体育大学3年
11	石井　優花	東京女子体育大学4年
12	白石　さと	オムロン
13	川畑　博美	東京女子体育大学4年
14	北原　佑美	大阪体育大学2年
15	深田　彩加	東海大学4年
16	馬場　敦子	大阪体育大学2年

参加報告　男子チームリーダー　松　喜美夫

第28回光州ユニバーシアードに参加して

日本の学生界念願のユニバーシアードに参加するにあたって、出発前国内の強化問題、韓国でのMERS問題、直前の組み合わせ変更等、多くの問題を抱えながら、6月29日グランドプリンスホテル新高輪での日本選手団の結団式、翌30日、緊張の中で、韓国金浦空港へ出発した。チームの課題として、ヨーロッパチームの大型選手に対する守備と攻撃が挙げられた。具体的に、守備では、ヨーロッパチームの大型ポスト選手をどのように守るのか、攻撃では、相手チーム守備ラインに位置する自チームのポスト選手をどのように起用するかであった。

この課題を克服するため、選考会も含め、4回の国内合宿での基礎的な重点強化策は、体格面の向上のためにさらなるフィジカルトレーニングの採用であった。日々の練習にウェイトトレーニングを導入し、日々の食生活も含めて、身体を大きくすることを目指した。

戦術面での重点強化策として、守備では、相手チームの攻撃行動のリズムを崩すことと攻撃スペースを制限することを目的として、ディフェンスラインの維持と、攻撃者への積極的な守備行動および接触を行うようにした。攻撃では、相手守備陣の移動量を増やし、ミスを誘発することと、組織的な守備活動を行わせないようにするといったことを目的として、ポストプレーヤーとバックコートプレーヤーを一体とした攻撃きっかけを軸にして、大きな動きを伴った攻撃行動を行うようトレーニングを行った。また、これら戦術トレーニングを映像記録し、選手達にタイムリーにフィードバックし、戦術行動理解の徹底を行ってきた（大会中も）。また、ナショナルチームや各実業団チームの協力を得て、上記の重点強化策の成果を確認しながら今回大会へ進んできた。結果、試合では各選手がそれぞれの役目

を果たして、日本でトレーニングしたDF面では成功。反省点として、GKのシュート防止率やサイドプレーヤーのシュート率などが各試合の得点差に繋がっている。

今大会は、PM8時からの試合が多いため、ドクター・トレーナーによる健康管理、情報分析スタッフによる夜遅くまでの映像チェック、選手・スタッフ含め一丸となって臨んだが、残念ながら内容は13チーム中11位という成績であった。大会運営に関しては、選手村の生活、特に食事は24時間営業で一度に3500人を収容、西洋・アジア・ハラル料理を5日ローテーションのバイキング形式。選手にとって問題のランドリーは、6時～24時まで無料で利用できた。ただ、試合会場は遠く、バスで約1時間半かかり、交通渋滞を懸念してパトカー先導で会場入りの配慮があった。大会としては、韓国のボランティアスタッフがたいへん親身になり感謝の中で終了した。

最後に、本大会の参加前から参加後までの間、様々なサポートをしていただいた日本ハンドボール協会事務局の皆様に感謝申し上げます。

参加報告　男子監督　**大城　章**

第28回光州ユニバーシアード競技大会を終えて

7月6日から13日の日程で、韓国・光州市で開催された、第28回光州ユニバーシアード競技大会へ出場した。「日本ハンドを変える」をチーム目標に掲げ、世界トップレベルと戦った6試合。今大会へ向けての取り組み、そして戦いを振り返りたい。

まず大会前に、選手選考合宿を実施した。ここでは、①攻守におけるハードコンタクトに強い選手②得点力に優れた選手の2つの点を重要視し、メンバーの選出をした。その後3回の国内合宿（計22日間）を行った。国内において強いフィジカルを持った選手をベースに、昨年の世界学生選手権（於：ポルトガル）で出た攻守における課題を考慮した6：0DFからの変形ディフェンス、オフェンスでは世界のトレンドであるトランジションプレーを新たな戦術に採用し合宿を実施した。期間中、日本代表や実業団チームの胸を借り、ゲームを通してチームづくりを進めた。更には新たな取り組みとして、分析担当コーチの協力を仰ぎ、選手へ日々のトレーニングやゲーム後において、分析映像データを即座にフィードバックした。これは、選手自身がデータから個人またチームを分析する力を養うことを目的とした。

そして大会本番、予選リーグは、ハンガリー、ブラジル、ポルトガル、スイス、イスラエルと対戦し、全敗で順位決定戦へと回った。順位決定戦でメキシコに勝利し、11位で大会を終えた。以下に、成果と課題を記したい。

【成果】

1）機能したセットディフェンス

大型ポストプレーヤーに対してのディフェンスを攻略するために、今大会は新たに6：0DFを採用した。このディフェンスの運動量を増やし、複数の選手でスペースを消すこと、そしてパスが通った際には複数で早いアプローチをすることの2点が良い結果に結びついたと考えている。

【課題】

1）セットオフェンスの決定率（シュート成功率）

各試合において、分析担当コーチの的確なデータ分析を基に、相手ディフェンスに応じた攻撃はできた。しかし、最後のノーマークシュートの成功率が極めて低かった。

2）ハードコンタクトの継続

体格に勝る外国人選手に対し、トランジションの際の攻撃を遅延させるためのコンタクト、または攻撃を中断させるためのコンタクトを繰り返すことで、後半多くの選手が疲労していた。これは、今後日本が世界と戦う上で必ずクリアしなければいけない大きな課題だと考える。オフェンス時にも受ける激しいコンタクトによる疲労が重なり、後半はオフェンスミスから逆速攻で失点するケースがほとんどだった。これを解決するためには、日頃からのフィジカルトレーニングまた自分の体を機能的に動かすトレーニングの実施が必須であると考える。

これらの成果と課題を今後に活かすには、各カテゴリーにおける指導の一貫性が最も必要であると考える。これは、日本ハンドボール界全体の大きな課題であるだろうし、「日本として進むべき道」を明確にしない限り、世界のトップと相対する国際大会で良い戦績を納めることは容易でないと私は考えている。

最後に、大会出場にあたり、日本ハンドボール協会、各所属チーム、スタッフ、何より一番は選手たちに感謝の意を表したい。今後、この経験を活かし更に精進していきたい。

参加報告　男子主将　**子安 貴之**

ユニバーシアード競技大会に出場して

はじめに、日本ハンドボールチームキャプテンとしてユニバーシアード競技大会に出場できたことを大変光栄に思うとともに、その環境を作っていただいた皆様に感謝致します。ありがとうございました。

「日本ハンドボールを変えよう！」をテーマに3回の強

化合宿を実施し臨んだ今大会。世界強豪国に勝つためにと、DFでは6：0、3：3、フォロー有りのマンツーマン、変則のワントップと様々な戦術を準備した。OFでは、自分達の持ち味であるスピードを活かしながらDFの間（あいだ）を強く狙い、プレーを継続させ、チャンスを作り出す戦術を徹底的に練習し、大会へと乗り込んだ。

結果は11位と納得のいくものではなかったが、チームとしてやってきた事、やろうとしてきた事は、世界レベルの戦術と何ら遜色のないものであったと感じている。また、日本選手の世界に通用するプレーも多々発見でき、私自身、世界と十分戦えるのではないか、このような取り組みを継続することによって、日本を変えられるのではないかと確信した。

課題としては、特にコンタクトフィットネスの差や試合中でのDFの対応力の差があげられるが、一番は局所でのノーマークシュートミス、イージーなミス等、自滅するケースが多かった点である。そこは戦術ではどうにも出来ない部分であるので、個々のスキルアップが必要だと痛感した。シュートの決定率が世界との差であり、その差を埋める事で世界と十分に渡りあっていけるであろう。

2020年の東京オリンピックに向け、私の今の目標は、オリンピック選手になり、今回、成し遂げられなかった、「日本ハンドボールを変えよう！」を実現させる事である。そして目標の実現がたくさんの方に夢や希望を与え、ハンドボールの更なる飛躍に繋がればと思っている。今大会での経験を糧に、日々練習に精進していきたい。

参加報告　女子チームリーダー　樫塚 正一

第28回ユニバーシアード競技大会が韓国第5の都市光州（グワンジュ）で開催された。参加国は170ヶ国、競技種目21種目、12000人の選手達が技を競った。第28回大会にハンドボールが初めて開催競技となり、世界から12ヶ国が参加している。ハンドボールが初めて開催に取り上げられた経緯は、開催国韓国がメダルを獲得出来る可能性が高い種目であると、関係諸氏の見解が伝えられていた。試合結果の詳細については指導スタッフの報告に委ねるとして、チームの構成、戦術には次の考えで大会に臨む準備を行っている。選手は社会人9名、大学生7名の計16名であり、前年度2014年世界学生ハンドボール選手権大会経験者社会人6名、大学生1名でメンバーが構成された。強化合宿の重点項目は2014年世界学生選手権の反省課題を念頭に置いて、

①コンタクトプレーに対する方策を考えた体力強化

②シュート確率を向上させるシュート練習

③サイズの問題を解決するディフェンスシステムの構築

を強化の3本柱としてチームづくりを行っている。仕上げた技術を試合に於いてどの様に戦術に落とし込むかが指導者と選手に求められる戦い方であったが、試合の流れを引き寄せる懸命な対策も勝利を獲得できるには至らなかった。6試合の戦いを総括する中から知見を得たものがある。指導スタッフが課題にあげた項目は的確な指摘であり、試合で生かされ戦術能力として発揮されていた。

①体力の消耗に関連するコンタクトプレーについては韓国戦を除く5試合総てが試合終了5分前まで接戦であり、勝敗を分けたのは残り5分間の攻防で疲れ果てた体力を気力だけでは持ちこたえられなかった。

②シュート確率を向上させるテーマについては、試合が大きく動いた中でのシュート確率は比較的成功していたが、接戦の中で外国人GKの大きさ、立ち位置、詰めの早さには経験不足、習慣的な判断の甘さでシュートを落とす場面がみられた。

③ディフェンスの成果には身長差を考えた3つのディフェンスシステムを作り、それらを試合の状況、相手チームの特徴に合わせて使い分け、全体的には成功したと考えたい。ただ相手チームに個人的に能力の高い選手がいて、システムの外で個人技で得点される状況下には具体的な指示が遅れ、システムでは勝てたが個人に敗れた現状が伺える。

また今大会は戦術を効率良く生かす手段として情報分析を専門とするスタッフを帯同させて、分析したデータを戦術に落とし込む作業を依頼した。分析スタッフはチームと帯同する時も一人で次の試合をデータに収めることもあったが、終わった試合から課題を切り出し、次の試合に落とし込む作業は連日朝方まで続き、その労苦には感謝の気持ちだけでは語り尽くせないものが残っている。この作業はミーティングに生かされ指導者、選手の戦い方に多大な貢献になった。指導者の準備、選手の努力を報告書に列記したが、シニアの世界大会では希望の順位を獲得することが出来なかった。世界で勝利を獲得するには、世界の常識を周知した指導者と選手を派遣する環境作りが出来れば、2020年大会を成功に導く方策が見えてくることを信じて、大会に参加した知見としたい。大会に参加するに当たり多くの方々に配慮を頂いたことにお礼を述べたい。

参加報告　女子監督　齊藤 慎太郎

第28回光州ユニバーシアード大会報告

2015年7月2日より開幕した第28回光州ユニバーシ

アード大会に、ハンドボール競技として初参加いたしました。ハンドボール競技は7月6日から7月13日までの8日間にわたり熱戦が繰り広げられ、女子は当初14か国の参加で4グループのリーグ戦の組み合わせでしたが、大会直前にハンガリー、北朝鮮が不参加を表明し、急遽12か国の2グループによる予選リーグへと組み合わせが変更となりました。大会期間中は選手村での生活となり、30階建ての高層マンションの1戸内に3部屋のベッドルームとリビングのある居室空間で比較的快適に過ごせました。またダイニングは早朝から深夜まで営業しており、遅い試合の後でも食事が自由に取れ、また種類もバラエティにとんで食事に困窮することはありませんでした。練習会場、試合会場への移動等においても定時にチーム専用バスが運行し、大会会場にはパトカーによる先導で渋滞もさほど影響なく時間通りのスケジュールで行動できたことは、スムーズな大会運営であったと思われます。

今大会の日本チームの目標はメダル獲得という大きなものでした。過去の大会でも入賞の経験はあるもののメダル獲得までには至りませんでした。ユニバーシアードと聞くと大学生の大会のように聞こえますが、実際には大学卒業後2年間、また28歳以下という年齢制限もあり、選手の年齢の幅は非常に大きいのも大会の特徴で、日本チームも大学生のみならず日本リーグ2年目までの選手も入り戦力を高めて臨みました。この世代は2020年東京に向けてのターゲットエイジ世代でもあり、この大会での経験が今後の選手の大きな糧になるものと認識し大会に臨みました。

大会までには第1次選考、2次選考、最終選考合宿を経て選手を決定し、4月に入り春季学生リーグ、5月の社会人選手権と各チームの予定が一段落した、6月に2回の強化合宿を行い、現地には試合の1週間前に入り、最終調整と他国とのトレーニングマッチを実施しました。所属のチームの関係者の皆様には大変急ピッチで選手の派遣等の手続きをお願いし、大変ご無理をおかけいたしました。この2回の強化合宿では、戦術の共有と、対外国選手に対するフィジカルフィットネスの重要性の認識とトレーニングを行い、また、JOCのキャリアアカデミーの講師の方々に夜のミーティングで、代表選手としての様々な知的教育も織り込みました。

大会はロシアの優勝、ナショナル選手を13人入れた韓国が2位、日本は予選リーグ1分け4敗の6位で、順位決定戦でウルグアイに勝利し11位という結果に終わりました。ルーマニアに引き分け、モンテネグロに1点差など前線はするものの勝ちきれなかったことは、大きな今後の課題として受け止める必要があります。今大会を終えるにあたり、所属の関係者の皆様、協会関係者、ならびにチームスタッフ、そして最善を尽くしてくれた選手、並びに応援していただいた国民の皆様に心から感謝したいと思います。

参加報告　女子代表　安倍 千夏

ユニバーシアードは大学生のオリンピックと聞いても最初はあまり明確なイメージは沸かず、いつものようなハンドボール競技のみの国際大会をイメージしていました。しかし、いざ選手村に足を踏み入れると各国の選手・各競技の選手、たくさんの人が賑やかに歩いていていつもとは違う雰囲気に圧倒されました。開会式も今まで経験してきたことのないスケールの大きさに、全員が身震いするような感動を覚えたのは間違いないと思います。

7月6日から始まったハンドボール競技、私たちの予選の相手はモンテネグロ・ウクライナ・ルーマニア・韓国・セルビアでした。韓国とは実力に差があり、ダブルスコアで負けてしまいました。モンテネグロには1点差で負け、ウクライナには後半10分で突き放され負け、ルーマニアには同点、セルビアにはラスト3分で3点差離され逆転負けでした。予選6試合を終えて、世界の背中が見えてきている、追いつけそうだ。と手ごたえを感じたこと、試合が終わるラスト何分かまでは1点を争う良いゲームができているのにも関わらず最後に勝ちきれない悔しさを経験し、どうしたら勝てるのか勝ちたいという貪欲な姿勢が見られたことはこの大会で収穫できたことと思っています。

この大会中、スタッフの方が「経験した人にしか分からないことを君たちは身を持って感じたはず」とおっしゃって下さいました。結果としては12チーム中11位と残念な結果でしたが、選手一人ひとりが得た経験を各所属に持ち帰って還元していこうと思っています。ユニバーシアードという大学生のオリンピックを経験できたことで、選手の中に2020年の東京オリンピックに対しての意欲・希望・憧れが湧いてきたことと思います。これからも日々、精進し続けます。

最後になりましたが、ユニバーシアードに日本ハンドボールが初めて参加したこと、大会に関われたことを大変光栄に思います。また引率してくださったチームリーダーをはじめ、監督・コーチ・トレーナー・ドクター・分析のスタッフの皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

帯同報告 男子トレーナー　永井 正之

はじめに大会参加に際し、多大なご支援・ご協力を頂きました関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

私はトレーナーとして大学生を中心としたカテゴリー（U-24男子）を12年間担当させて頂いております。U-24はFISU（国際大学スポーツ連盟）主催のWorld University Handball Championshipいわゆる「世界学生」と言われている大会に照準を合わせてきました。世界学生はハンドボール単独の大会で規模も大きくはありません。出場チームも開催地によって数チームしかないということもかつてはありました。

今回の光州ユニバーシアード競技大会（韓国）で初めてハンドボールが開催された影響か、ここ数年は世界学生にもスペイン、ポルトガルなどヨーロッパの強豪国もエントリーし、レベルも格段に上がってきていました。

トレーナーとして、ユニバーシアードで世界の強豪国に立ち向かう上で、また2020年東京オリンピックに向けて、技術力向上もさることながら、それを支えるフィットネスレベルをいかに向上させていけるか、またセルフコンディショニング力を身につけさせるかを課題に取り組みました。

今回は選手15名中、社会人選手13名となっており、カラダや食に対する知識と意識が高かったため、順調に実践することができました。

その取り組みのいくつかをご紹介します。

【アーリーワーク】

NTCでの合宿時、慣例となっている起床時の散歩を辞め、朝食前にウェイトトレーニングを行いました。これは強度の高いものではなく、筋肉に刺激を入れる程度のトレーニングを30分行います。毎回テーマを決め、マシントレーニングを中心に行いました。直後にしっかりと朝食を摂り、その後午前中のボールトレーニングを行います。これはウェイトトレーニングで身につけた筋力をハンドボールにフィードバックさせることが目的です。

【禁煙】

私が初めて帯同した2004年のロシア大会では、私が把握しているだけで半数の選手が喫煙をしていました。しかし回を追うごとに喫煙者が減少しており、今回のU-24代表チームは、スタッフも含め喫煙者は1名（選手）のみとなっていました。社会的な傾向もあると思いますが、選手の意識やモラルの高さが際立ったチームでした。

【セルフコンディショニング】

ストレッチ（パートナー、セルフ）指導。当たり前のことですが、もう一度基礎を見直し指導しました。知っているようで知らない事や、間違った知識のまま行っている点などを徹底して改めました。

戦績は納得のいくものではありませんでしたが、チーム全体のハンドボールに対するモチベーションやカラダに対する意識の高さは、今までのチームの中では最高でした。強いチームになる要素は併せ持っていると思います。

今後は東京オリンピックに向けて勝てるチームを作っていく上で、日本人としての特性を活かし、トレーナーとしてさらなるバックアップ体制を整えていきたいと思います。

女子トレーナー　佐野 裕美

7月3日～14日まで韓国光州で行われた2015ユニバーシアードに参加してきました。ハンドボール競技にとっては初出場の記念すべき今大会にトレーナーとして帯同をさせていただけた事、まずは関係者の皆様に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

今大会では試合の一週間前に現地入りするということもあり、選手の体力面を非常に心配していました。現地に入ると1日90分の体育館割り振りだったので、事前合宿の1週間は選手にとってはとても過酷な時間になったと思います。結果にはなかなか繋がりませんでしたが、全試合を通して体力のなかった選手達が海外の大きな選手相手に最後まで闘い抜くことが出来、非常に嬉しく感じました。毎試合厳しい結果となりましたが、トレーナーとしてやるべき事は選手を良い状態で試合に臨ませる事なので、結果に自分の心が左右されないよう試合時や練習時の選手の動き、そして生活面での選手の状態を観察して、どのようなリカバリーを実施すべきか、監督、コーチ、ドクターと相談しながら現地でのコンディショニング維持の工夫に集中してきました。

今大会を通して東京オリンピックを目指す世代の選手達にとって、このような世界大会に参加できたことは非常に大きな経験になったと思います。選手村で過ごすということ、様々な競技団体、ハンドボールでは接することのない国の選手と接する機会はなかなかありません。また、世界大会だけあり、毎試合厳しい対戦相手でした。世界大会での1点がどれだけ大きいか、ミスがどれだけ大きいか、コンディションがどれだけ大切か、トレーナーとしても身の引き締まる貴重な経験をさせていただきました。

男女共に闘い抜いた6試合、そこにいたから感じられたこと経験出来たことを大切に胸にしまい、それぞれが各所属へ戻りました。この経験が無駄にならないよう各自更に精進していきたいと思います。そして支えてくださった皆様にその努力で恩返しをしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

男　子

■7月6日（月）

日本　26（15－19，11－12）31　ハンガリー

立ち上がり八巻のミドルで日本が先制。以降も東江のカットイン、内海の7mTなど、序盤は日本がリズムを掴む。ここでハンガリーはタイムアウトを請求。この後ハンガリーはDFで日本のミスを誘い、4本の速攻などで一気に8連取しリードを広げる。追い上げたい日本は3-3DFにシステムチェンジし、子安の速攻などで2点差まで追い上げるが、中盤の連続失点がひびき、4点ビハインドで前半を終了。

後半は一進一退の攻防が続く中、両チームともOFでミスが続き、なかなか波に乗れない時間が続く。流れを引き寄せたい日本はDFシステムを6-0に戻し、ペースを掴んだように思えたが、退場が続き追い上げることができないまま試合終了。

［個人得点］東江：7点、山田・内海：4点、子安・田中・小塩：3点、八巻：2点

■7月7日（火）

日本　28（15－14，13－18）32　ブラジル

立ち上がりから日本は体格に勝るブラジルに対し、3-3DFを仕掛けリズムを掴み、東江のミドル、子安の速攻などで4点差を付け優位にゲームを進める。中盤からは一進一退の攻防が続き、ブラジルも2番のサイド、15番のカットインなどで徐々に点差を縮めてくる。日本も山田のキレのあるカットインや小塩のミドルで逆転を許さず、終盤に相手8番の退場でチャンスを掴んだが、ミスから失点し1点リードで前半終了。

後半立ち上がり、ブラジルのポスト7番がDRで退場。このチャンスに日本は山田と東江のカットインで2連取し、再びリードを広げる。しかしここから日本はOFでミスが続き、ブラジルに4連取を許し逆転される。ここで日本はタイムアウトを請求。しかしこの後も日本はOFでテクニカルミスが続き徐々に点差を広げられる。終盤に入り、内海のサイド、速攻などで追い上げたが、ブラジルも2番のサイド、9番のカットインなどで再び突き放し、4点差で試合終了。

［個人得点］東江：9点、山田：6点、内海：4点、子安・田中・小塩：2点、玉城・酒井・橋本：1点

■7月9日（木）

日本　24（9－11，15－21）32　ポルトガル

日本は立ち上がりからミスが続き相手の不正入場のチャンスを生かせずなかなかリズムを掴むことができない。序盤3連続失点し、5点差をつけられたところで、日本はタイムアウトを請求。ここから日本は酒井、菅野、GK岩下の体を張ったDFからボールを奪うと、東江のカットイン、内海の速攻などで追い上げ、徐々に点差を縮めていく。ポルトガルもNo.24のサイド、No.20の力強いポストなどで得点するが、日本が2点差まで追い上げ前半終了。

後半、一気に追い上げ逆転したい日本だが、立ち上がりからミスが続き、5連続失点を許してしまう。日本は小塩、東江のミドルで必死に食らいつくが、ポルトガルもNo.23の力強いカットイン、No.4のテクニックのあるサイドで得点を積み重ね日本の追撃を許さない。終盤に入っても、一進一退の攻防が続き、日本は相手の力強い攻撃を防ぐことができず、追い上げることができないまま試合終了。

［個人得点］東江：8点、小塩：6点、内海：5点、堤：2点、子安・山田・橋本：1点

■7月10日（金）

日本　23（10－21，13－17）38　スイス

序盤から日本はミスから速攻を許し、リズムに乗ることができない。酒井のポスト、小塩のミドルで追い上げるが、スイスの長身GKに次々とシュートを阻まれ、スイスNo.3、No.14の出だしの早い速攻で点差を広げられる。終盤に入り落ち着きを取り戻した日本は、東江、堤の速攻などで得点を重ねるが、序盤の連続失点がひびき、11点差広げられ前半終了。

後半に入り立て直したい日本は、DFシステムを3-3にシステムチェンジするが、OFでのシュートミスが続き、なかなか追い上げることができない。リズムを変えたい日本は、大型ポストの岡元を投入。高くアグレッシブに動くスイスDFに対し、機動力のあるポストを使った攻撃でファウルを誘い、7mTを内海がきっちり決め攻撃でリズムが取れてきた。しかし、スイスも攻撃の手を緩めない。No.2、No.15の速攻で一気に4連取。最後まであきらめない日本は、キャプテン子安のサイド、スカイプレーの連続得点で追いすがるが、38対23で試合終了。

［個人得点］子安：5点、小塩：4点、堤・内海：3点、酒井・東江：2点、田中・山田・橋本・岡元：1点

■7月12日（日）

日本　27（15－16，12－14）30　イスラエル

［個人得点］内海：8点、子安・東江：5点、山田・橋本：2点、田中・堤・小塩・酒井・岡元：1点

■7月13日（月）：11－12位戦

日本　32（15－15，17－13）28　メキシコ

今大会の初勝利をねらう日本は、内海の速攻で先制。その後も子安、東江の速攻で連取し、幸先のいいスタートを切る。対するメキシコは、No.5のカットインで日本の高い3-3DFを崩しにかかる。中盤に入っても日本は攻撃の手を緩めず、玉城のスカイプレー、東江の速攻で得点を積み重ねる。このまま点差を広げて前半を終えたい日本だが、連戦の疲れかDFで足が止まってきたところをメキシコはNo.24のポストプレーで連続得点し、一気に3連取で15対15の同点で前半終了。

後半に入り、日本は6-0にDFシステムをチェンジしリズムを掴む。OFでは八巻、東江のキレのあるミドルでリードを広げる。メキシコも24番の巧みなパスワークから4番のカットイン、11番のポストで追いすがるが、15分で日本は5点のリードを奪う。しかしここからOFでのミスが続き、2点差まで詰め寄られ、日本はタイムアウトを請求。ここで戦術の確認をした日本は、田中の豪快なサイド、小塩のキレのあるミドルで再びリードを広げる。メキシコもNo.24の素早いフェイントで得点を積み重ねるが、終盤に入り終始リードを保った日本が逃げ切り、今大会初勝利を挙げ11位で大会を終えた。

［個人得点］田中・内海・東江：6点、子安・玉城・山田・堤・小塩・橋本：2点、八巻・酒井：1点

女　子

■7月6日（月）

日本　27（15－15，12－13）28　モンテネグロ

モンテネグロのスローオフで試合開始。開始２分河嶋のサイドで先制点をあげるもLBのJAUKOVICに豪快なディスタンスを打ち込まれ、オフェンスミスからRWのBULATOVICに得点を許す。日本も山下のポスト、北原のミドルで対抗するも、LBJAUKOVICのディスタンス、フリースローからポスト、カットインなどで、前半15分４対８と苦しい展開。ここからディフェンスを3-2-1防御に変更し、RW諸岡のリバウンド、サイドで連続得点し20分９対11と追い上げる。ここから一進一退の攻防により前半を15対15で終了。

後半開始からお互いに点を取り合い、16分多田の７mスロー、大山のカットインで４点リードする。ここからモンテネグロJAUKOVICに４連続得点を許し、25分26対26の同点。残り５分の戦いになるが、JAUKOVICのパワーに押され、7mTを取られ、26対27とリードされる。残り３分秋山のサイドで追いつき、必死のディフェンスで粘るも、残り２分モンテネグロGRBICにカットインされ、このプレーで北原が一発レッドとなり試合終了となる。

［個人得点］多田：7点、大山・川嶋：4点、秋山・北原：3点、田村・諸岡：2点、安倍・山下：1点

■7月7日（火）

日本　23（10－13，13－18）31　ウクライナ

開始早々、諸岡・河嶋のサイドで得点をあげる。日本はウクライナの高さに対し3-3DFで仕掛けるが、パワープレーで押し込まれ、開始19分まで５対６のロースコアーで試合が展開される。開始20分から25分、日本にミスが続き、ウクライナに５連取され苦しい状況に。27分から多田の7mT、河嶋のポストなどで食い下がり、前半10対13で終了。

後半開始、早い時間に追いつきたい日本は山下のポスト、秋山の7mT、河嶋のポストで食い下がるが、ウクライナLBSTELMAKHを止め切れず、中々追いつかない。セーブされ、いっきに５連取を許し６点差をつけられる。大山、石井のカットインで獲得した7mTを多田、秋山が決め，日本も必死に追いかけるが、ウクライナLBSTELMAKHRB TKACHENKOに得点を許し差を詰められない。日本はディフェンスシステムをこまめに変えるが、ウクライナは慌てることなくゲームを運ばれ、23対31で試合終了となった。

［個人得点］川嶋・秋山：6点、多田：5点、諸岡：2点、大山・田村・山下・川畑：1点

■7月9日（木）

日本　32（14－18，18－14）32　ルーマニア

開始早々、ルーマニアZAMFIRESCU、GAVRILAに２連取される。日本は大山のスタンディングで得点するが、ZAMFIRESCU，TIRONのバックプレーヤーに押し込まれ連続失点する。ここで斎藤監督タイムアウトを請求し戦術を確認、安倍、多田の得点からDFで粘り、開始16分大山、諸岡、河嶋の３連続得点で８対８に追いつく。ルーマニアもタイムアウトを請求し、ここからTIRON、CIRIANに連続得点を許し前半を14対18で終了。

後半開始早々にCIRIANに押し込まれるが河嶋のサイドで取り返し、安倍のミドル、カットイン、ルーマニアもCIRIAN、TIRONの連続得点で点差がつまらない。後半10分過ぎからDFシステムを変更したことでルーマニアにミスが出始め、河嶋の６得点から26対27の１点差につめる。ルーマニアもタイムアウトを請求し立て直しにくるも、日本は必死に食らいつき、後半27分30対30に追いつく。ルーマニアはエースCIRIAN、TIRONを中心に攻め込むが残り２分、日本は堅い防御からノーマークチャンス作るもENACHEにセーブされ、追い越すチャンスを逃す。ルーマニアTIRONに打ち込まれ、30対31。山下のポストで追いつくもAPIPIEの体格に押し込まれ、残り40秒で日本はタイムアウトを請求し、戦術を確認。河嶋のサイドシュートから安倍にパスを返し、安倍が押込みながら、ポストに走りこんだ諸岡が同点ゴールを決め、32対32で試合終了。

［個人得点］川嶋：9点、多田：8点、諸岡：5点、安倍・大山：4点、田村・山下：1点

■7月10日（金）

日本　21（8－21，13－21）42　韓国

開始早々から韓国の個人技、完成されたDFを攻めきれず開始10分０対９と大きくはなされる。日本の初得点は河嶋のサイドシュートで得点するも韓国の怒涛の攻撃を止められず、前半を８対21で終了。

後半は韓国もメンバーを入れ替えてくるも、個々のシュート・フェイント・判断力が非常に高く、日本の防御が振り回され韓国に連続得点を許す。非常に苦しい状況の中、選手たちは何かを掴むために必死に防御し、得点を目指すが、後半13対21で終了。

［個人得点］大山・川嶋：5点、多田：4点、安倍・諸岡：2点、田村・川畑・北原：1点

■7月12日（日）

日本　26（13－13，13－16）29　セルビア

開始、安倍のディスタンスで先制点をあげるも日本の3-3DFをGEORGUEV、PETROVICにカットインを許す。日本も河嶋のサイドシュートで得点をあげ、セルビアに連取を許すも安倍のカットイン、河嶋の速攻などで応戦し、前半を13対13で終了。

後半開始、RADOJEVICに連打を許し、主導権をセルビアにもっていかれるが、諸岡の速攻、石井のカットイン多田の7mTで後半10分に同点に追いつく。ここからディフェンスラインを下げ、相手のミスを石井と川畑のコンビ、多田のカットイン、7mTを確実に得点に繋げ、22対19の３点リードする。ここでセルビアがタイムを請求し、GEORGDEV、RADOJEVICにディスタンスを打ち込まれ、点の取り合いから残り３分、26対26の同点。ここで、山下が退場となり、セルビアGEORGUEV、PRIJOVICに打ち込まれ、26対29で終了。

［個人得点］多田・河嶋：6点、安倍：5点、諸岡・石井：3点、北原：2点、川畑：1点

■7月13日（月）：11－12位戦

日本　31（14－9，17－9）18　ウルグアイ

［個人得点］田村・山下：4点、安倍・諸岡・秋山・石井・深田：3点、多田・北原：2点、大山・河嶋・田中・川畑：1点

審判報告

2015 UNIVERSIADE GWANJU にレフェリーとして参加して

太田 智子・島尻 真理子

ユニバーシアードとは学生のためのオリンピックと言われている。全世界の学生たちが集まり競う。とは言っても、出場資格は、17歳以上28歳未満であるため、プロの選手へも出場が認められている。各国、代表に入っている選手も多く見受けられた。非常にレベルの高い大会だった。ハンドボールは今まで世界学生選手権としてユニバーシアードで開催されない種目が単独開催されていたが、今年からユニバーシアードでの開催種目となった。オリンピック世代と言われる選手たちはもちろん、私たちレフェリーにとっても、ハンドボールはもちろん他の競技の選手、レフェリーたちと交流ができたことは非常に有意義であった。韓国の広州（グワンジュ）で開催され、仁川空港からバスで4時間かかって移動した。宿泊先から3会場まで約1時間弱から2時間弱かかる場所にあった。移動での不便さを感じた。

さて、試合はというと、2015/7/6～7/13の日程で当初は3つのグループだったが､男子はチェコ､女子はハンガリーと北朝鮮が不参加となり、男子13チーム、女子12チームのそれぞれA組B組の2組に分かれリーグ戦を行い、最終日にそれぞれの順位同士で順位決定戦を行うというシステムに変更された。リーグ戦の順位である程度の順位が決まるため、予選リーグから選手にとってもレフェリーにとっても気の抜けない試合が続いた。

今大会のノミネートを受け（4月）ノミネートされたレフェリーを知った時から、私たちにとって今大会の重要性を認知した。なぜなら、オリンピックや世界選手権でノミネートされているレフェリーやヨーロッパを中心とした面々だったからだ。ノミネートされたレフェリーは、ブラジル、イスラエル、ノルウェー、エジプト、ポーランド、チェコ、韓国、日本、ポルトガル、モンテネグロ、ルーマニア、スロバキア、コートジボワール。13組中7組がヨーロッパのレフェリーだ。このメンバーの中に私たちがノミネートされた意味を考えなければいけなかった。私たちがすべきこと､学んだこと、今後すべきことを私たちが感じたままにお伝えする。

大会前：大会のノミネートを受けたら決して断らないと決めた。私たちレフェリーにも社会と同じく組織があって、審判長というのは絶対的に従うべき人物。IHFだろうが、AHFだろうが、日本だろうが、各ブロックだろうが、県内だろうが同じこと。会社でいうと社長、家族でいうと…（笑）。来いと言われれば行く、やれと言われればやる、やるなと言われれば決してやらない。単純なことだが、それが組織で最も重要なことだと思っている。仕事が忙しくて…よくわかるし、私自身も今まではそれを理由にしていた気がする。他国と違って日本は協会が審判を確保しているわけではない。各自仕事を持っているから仕方がないことだとも思う。しかし、そこから得るものは何もなかったことに気づいた。まずは行くと決めたら、準備を怠らない。準備とは仕事のことから周囲への配慮、自分のことまで全てを意味する。私たちにとって、英語でのコミュニケーションが最も補わなければならない点であるが、まだまだ堪能ではないため、せめてフィジカル的には最高な状態にもっていかなければと思って取り組んだ（英語は絶対的に必須です）。何より大事なのはいろんな意味で見た目！　観客や選手・スタッフは、まずは担当するレフェリーの状態を見る（堂々とした雰囲気、身体の締まり方、鍛え方、アップの状態など）。やれるだけの時間を使い、今まで以上にトレーニングを行い、筋力トリーニングや走り込みで体をつくった。私達は今までの中で最高のフィジカルで臨むことができた。これは、誰にでもできることで、『できないのは、やらないからだ。自分で言い訳をつくって、何かのせいにしているだけだ』と、伝えたいと同時に自分たちに言い聞かせる。そして、私たちが今大会前にやりたかったことがある。今の段階では、日本と世界のハンドボールの差は明らか。ということは、日本のレフェリーと世界のレフェリーの差も明らかということ。少しでもハードでタフなハンドボールの試合を経験すべきだと思った。審判長に相談し、代表やリーグ勢、アンダーのカテゴリーなどとの連携を提案していただき、コンタクトを取ったが、日程が合わず今回は見送ることになった｡しかし､今後世界大会に出て行くレフェリーは事前練習をしていくべきだと思う。やらない選択をするよりやる選択をすべきだと思う。しかし、本来私たちが希望するのは、国内ではなく海外へ派遣してもらいたいと思っ

ている。

大会中：選手村に隣接するITOヴィレッジ（役員用の選手村）に宿泊した。高層マンションの一部屋で3部屋と広いダイニングキッチンが付いている。中にはペアが分かれ、別国レフェリーと同部屋ということもあった。私たちは26階で2人だった。自分の部屋にシャワーやトイレもあり快適だったが、ベッドが非常に固いし、枕がペットボトルくらいの高さがあって、良い睡眠をとるには苦労した。コンディシィン作りは欠かせない。中には、体調を崩し、途中で帰国するレフェリーもいた。期間中のコンディション作りは食事、睡眠、休養、トレーニングを含めて非常に重要だ。4日に入国し、5日にはレフェリーミーティングが行われた。今大会に気をつけなければいけないことを要確認し、統一を図った。特に、Direct 2 minutesの状況、レッドカードの状況、アドバンテージの確認だった。ハンドボールの面白さを損なってはいけない、ただし、選手の怪我や選手の憤慨のもとを作ってはいけないのは承知していた。3会場に分かれていたので、全ての試合を見たわけではないが、一番感じたことは、基準がどうこう、判定がどうこうではなく、すごく丁寧だけど、ムダなことはしない。そして、闘っているということだった。レフェリーの判定が勝負をわける、その1つのミスがその選手の何かのきっかけになるかもしれない、わかりにくいジェスチャー・判定一つで選手のムダな体力を奪ってしまう、一瞬のミスや迷いが笛のタイミングを失う、困るのは練習に練習を重ねてきた選手である。という想いや決意が振る舞いや笛、すべてから表れていることを感じた。国内では自分に対する周りの目を気にし、自分の姿や判定や笛に酔っているレフェリーを見かけるが、それは、自分のためにコートにたっていると思う。独りよがりでは別次元の話だ。国内でも変わりはないが、特に私たちは、国と国の試合をジャッジする。文化の違いや歴史、背景など様々な想いをくみ取り、プライドの強いぶつかり合いを公正・公平にジャッジする役目を担っている。改めて、私たちの役目を胸に焼き付けた。

私たちは、全部で4試合吹くことになったが、1試合ごとに気づくことがあり、それを修正すべきだと話し合った。それができたことが何よりの収穫だった。世界のトップのレフェリーたちが集まっている今大会。学ぶというより、真似をするいいチャンスだった。私たちは1試合吹いた後に気がついた、「自分らしさや日本らしさを披露する場所じゃない。日本らしさで吹いていたら、完全に出遅れる。いい意味で日本らしさを捨て、ヨーロッパの風にのらないと、完全に取り残される」と。とにかく真似をしてみることにした。ジェスチャーから、判定基準、ポイントの取り方から、選手とのコミュニケーションのとるタイミング…1試合目のまま、日本らしさで吹いていたら得るものはなかったと確信した。とにかく真似をしてやってみることで生まれたものは、かなりしっくりきていた。この感じたままを日本らしさに戻すのは非常に悩ましいが、私たちがすべきことは、日本では日本らしく吹くのか？　はたまた、世界で得たままを吹くのか？海外のレフェリーは自国でも同じ笛を吹いているが、果たしてそれが今の日本のハンドボールに適しているのかはわからない。でも、全てがそうでなくても、私たちができることは何かあるはずだと思っている。

大会後：急遽、飛行機のキャンセルがあり、私自身は最終日を残して、1人帰国することになり、順位決定戦は吹くことがないばかりか、見届けることもなかった。しかし、得るもの、学びとったことは非常に大きく、今後ペアで実践できれば、確実に大きな成長につながるものだと確信している。今後様々なカテゴリーが世界大会で活躍するために、国際レフェリーをもっともっと活用すべきだと思う。それができる体制になることを切に望む。今大会でも、日本では吹かれないような笛を吹かれて、日本チーム、選手が困っている様子が見受けられた。そのようなことを少しでもなくしてもらいたい。レフェリーにストレスをためるようでは誰と勝負しているかわからないし、相手ともっと思いっきり向き合い、ハンドボールで熱く闘って欲しいと感じた。

最後になりましたが、今大会に参加するにあたりご協力、ご支援いただきました、日本協会始め多くの方々へ感謝申し上げます。

第35回 全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会

【最終順位】

■男子	■女子
優勝：甲府クラブ	優勝：REDS
2位：富岡ハンドボールクラブ	2位：オレンジクラブ
3位：学石クラブ	3位：梅の家
4位：ラージェスト	4位：HC 東京 VENUS

大会を振り返って

山梨県ハンドボール協会理事長　小澤　茂

全国クラブハンドボール選手権大会が、平成8年の第16回大会から東西地区大会となってから、前年平成26年の第34回大会まで、19年間続けて福島県にて同大会が開催されてきたが、北海道、東北及び関東での持ち回り開催が決定され、本年第35回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会が山梨県で開催されることとなった。

大会準備については手探りの状態であったが、大会試合数から関東社会人・クラブ大会と同規模であることから、過去の関東大会開催データを基に準備を進めた。また、小学部から一般部までの選手・役員の協力を得て大会運営にあたった。

審判については、昇級審査を受ける審判員により運用されるものと予定していたが、約半数の試合を県内審判員で行わなければならなくなり、人員の確保に苦慮した。

試合については、開催地を含む各ブロック予選を通過または推薦された男女各16チームにより行われ、各試合とも白熱したゲームが展開される中、男子では地元の甲府クラブが初優勝を飾り、大会に尽力した地元役員の方々の労に報いることができ、また、今後の山梨県ハンドボールの活性化及び発展に大きく寄与したものと思われる。

今後は東日本の各地区で開催されるが、次回山梨県開催の際にはより発展した大会運営に努めたい。

終わりに、長年本大会の運営にあたっていただいた福島県ハンドボール協会の皆様に敬意を表します。

戦　評

■男子決勝

甲　府 クラブ　47（22−16, 25−16）32　富岡ハンドボールクラブ

共に初優勝を目指す甲府クラブと富岡ハンドボールクラブとの決勝戦は、開始から富岡クラブが甲府クラブへのダブルマンツーマンディフェンスでプレッシャーをかける中、甲府クラブは全試合通しての3：3ディフェンスで応戦した。

両チームともディフェンスから速攻の応酬となったが、精度に優る甲府クラブが前半を22対16とリードして終えた。

後半に入り、富岡ハンドボールクラブはマンツーマンディフェンスを解いたものの流れを掴むことができずミスが続き、最後は47対32の大差で甲府クラブが初優勝を飾った。

■女子決勝

REDS　18（5−9, 13−7）16　オレンジクラブ

オレンジクラブのスローオフで始まった女子決勝戦は、立ち上がりオレンジクラブ9番阿久津の連続ミドルシュートでリードしたが、両チームのゴールキーパーの好セーブなどでロースコアの展開となる中、中盤からはREDSのオフェンスミスからの速攻などで、オレンジクラブが9対5と4点をリードして前半戦を終えた。

後半に入るとREDSは、オレンジクラブのエース9番阿久津に対しマンツーマンディフェンスを行い、苦しい展開となったオレンジクラブも工夫を凝らし得点を重ねるも、中盤で同点に追いつかれその後逆転を許した。

REDSは、終盤で2点リードするとそのリードを守り、18対16と逆転勝ちで、昨年に続き連続優勝を飾った。

男子優勝：甲府クラブ

甲府クラブ代表　山本　健

私たち甲府クラブは、第35回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会に関東地区代表として出場しました。私たちは、駿台甲府高校の卒業生が中心となって活動しているチームであり、恩師である八田政久先生に厳しく叩き込まれたハンドボールがチームに浸透し、それをメンバーがお互いに理解していることが最大の強みと感じております。

優勝までの道のりは決して順調とは言えず、本大会前に行われた関東予選では1回戦で敗退してしまい、敗者復活にて代表権を獲得しました。そのため、もう1度自分たちのスタイルを見直し「守って走る！」ということを徹底し、気持ちを新たにして挑んだ大会でもありました。また、昨年度までは福島県で行われていた本大会が、今年度は地元山梨県で開催されることもあり「優勝」を目標にチーム一丸となって日々の練習に励んできました。

大会当日、チーム全員が参加できなかったのは残念でしたが、参加できないメンバーの分までという気持ちで試合に臨みました。当日はそれまでの梅雨模様の天候とは打って変わり、急に真夏になったかのような気温となり、私たちのチームにとって大変苦しいものでしたが、ディフェンスでは足を止めずに動くことができ、オフェンスではチームの持ち味である速攻という形に多くつなげることができました。大会前から確認していたことを発揮できたことが、優勝という最高の結果につながったと感じています。

これもひとえに、いつも練習場所を提供してくださっている八田先生をはじめとする駿台甲府高校の方々、そしていつもチームの活動に理解してくださっている選手のご家族のおかげだと思います。今大会の結果に満足することなく、応援してくださった方々のためにも、さらに上を目指し、強いチームになるよう努力していきます。

最後に、大会運営にあたりご尽力いただいた関係者の方々、対戦したすべてのチームの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

女子優勝：REDS

REDS　樋口 香織

今回、第35回全国ハンドボール選手権大会東地区大会において、2連覇という結果を残せたのも、大会運営に関わってくださった皆様や応援してくださった方のご尽力、ご協力の賜と、心から御礼申し上げます。

私たちREDSは、高校時代の先発、後輩、同級生が多く、和気藹々と埼玉県内で活動するチームです。クラブハンドボール選手権大会東地区大会と冬の首都圏リーグに焦点を合わせて、練習を行っています。

今回の大会では、1日2試合と過酷なスケジュールの中で、全員の気持ちが「ここまできたなら、勝って二連覇するしかない！」「みんなで笑っておいしいお酒が飲みたい」とチーム一丸になって戦いました。今回、試合に来られなかったメンバーへ良い報告をしたい気持ちで若手からベテランまで必死に走って総合力の結果、2連覇に繋がったのだと思います。

私たちは、今回の成果と反省点を踏まえ、ハンドボールができる環境に感謝し、今後も皆様に慕われるチームになるよう尽力するとともに、来年度もこの大会に出場できるよう精進していきます。ありがとうございました。

第35回 全国クラブハンドボール選手権大会中地区大会

【最終順位】

■男子	■女子
優勝：HC 岐阜	優勝：Poire
2位：八光自動車工業	2位：三重娘
3位：ボンチフェローズ	3位：BRHC
4位：KSV	4位：cheeky

大会を振り返って

新潟県ハンドボール協会理事長　山川 博行

7月11、12日の両日、第35回全国クラブハンドボール選手権大会が柏崎市総合体育館西山総合体育館柿崎総合体育館の4会場で開催され無事大会を終えました。

2015年2月に新潟県で本大会の開催が決まり、少ないスタッフ、短い準備期間の中で準備をすすめてまいりましたので、参加されたチームの役員、選手の方々やTD、審判で参加された方々に満足な対応が出来てなかった事をお詫び申し上げます。

両日を振り返り、前日までは比較的涼しい日が続いていたのですが、開催日から急に気温があがり、エアコンのない会場でのチームにはご苦労をかけ大変申し訳ありませんでした。

1回戦から7mTで決着がついた試合や、僅少差の試合が続き選手の疲労蓄積による怪我を心配しておりました矢先怪我人が出て、対応はあれでよかったのかと思っております。

男子優勝のHC岐阜、準優勝の八光自動車、2位のボンチフェローズ、4位のKSVは試合の流れ次第ではどこが勝ってもおかしくない中、しぶとく決勝戦に勝利したHC岐阜の試合運びのうまさとベンチワークは素晴らしかったです。

女子優勝の京都のPoire、準優勝の三重娘、3位のドルフィンズ、4位の御座候の各チームも洗練されたいいチームでしたが、その中でもPoireはGKを中心にした安定した守りからの速攻で全試合を勝利していったように思います。

交代メンバーもいない中、タイムアウトをとるのも大変だったのはないのでしょうか。

男子の出場チーム数はともかく女子の出場チーム数を考えると、各県とも共通な課題ですが、成年女子種別の登録チーム数が少ない事が考えられます。

今後ジャパンオープンとの兼ね合いを考慮し、出場枠を考えていかねばと思います。

最後に、日本ハンドボール協会、近畿ハンドボール協会、東海ハンドボール協会、運営を手伝っていただいた北信越ハンドボール協会、大会に参加した全チームの運営スタッフに感謝致します。

戦　評

■男子決勝

HC岐阜　24（9－10, 15－10）20　八光自動車工業

八光自動車のスローオフから試合が開始された。八光自動車宮本の連続得点で好スタートしたが、すぐさま、HC岐阜吉村の得点で反撃した。八光自動車のアグレッシブなDFと今塩屋の好セーブで一時9対4とリードしたが、対応力のある岐阜は相手の2分間退場を機に点差を詰め、10対9と八光自動車のリードで前半終了。

後半、両チームとも速攻で点を取り合い、スピード感ある試合展開になる。岐阜のポストプレーで15対15となり、一進一退の好ゲームが続く。八光自動車が岐阜のミスを確実に得点し、3点差をつける。しかし、岐阜は八光自動車が2分間退場している際に19対19と同点に追いついた。残り5分、6人に戻った八光自動車だったが、すぐに退場者を出し、岐阜は宮崎のロングシュートで逆転に成功し、そのまま勢いに乗ったHC岐阜が20対24で逆転勝ちした。

■女子決勝

Poire　24（14－9, 10－6）15　三重娘

1回戦を35対7、2回戦を32対9と大差で勝ち抜いてきた京都代表Poireと160㎝後半の選手が並ぶ三重代表三重娘。三重はロングシュートを中心に得点を重ね、京都はポストを使ってのカットインと速攻で得点を重ねる。16分までは三重がリード。17分に三重に退場者が出たところで京都は3連続得点で逆転し流れをつかみ、得意のカットインと速攻で得点差を5と広げ前半を終えた。

前半をいい形で終えた京都は、後半のスタートも流れを離さずじわじわとリードを広げた。三重は小西のロングシュートで応戦するも得点差を縮めることができなかった。京都の放ったロングシュートはわずか3本ほどであったが、最後まで選手の運動量が落ちることはなかった。両チームともそれぞれのチームの特徴を生かしたゲーム展開ができ、本大会を締めくくる好ゲームとなった。

男子優勝：HC 岐阜

HC 岐阜主将　中里 栄二

はじめに、第 35 回全国クラブハンドボール選手権大会・中地区大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた全日本社会人ハンドボール連盟をはじめ日本ハンドボール協会、地元新潟県ハンドボール協会、ならびに関係各位の皆様に改めて心より厚く御礼申し上げます。

この度、第 35 回全国クラブハンドボール選手権大会・中地区大会で優勝を果たすことができ非常に嬉しく思っています。これも一重に日頃から HC 岐阜の活動をご支援いただいている“ぎふ瑞穂スポーツガーデン”のスタッフの方々や選手が所属する各企業・団体関係者の方々の理解があっての事と感謝しております。

さて、今年のチームは HC 岐阜結成以来、初めて県内の大会で負けるという苦しいスタートとなりました。しかもその負けにより 4 年連続で出場していたジャパンオープンへの出場が途切れる結果となりました。そこで、本大会で優勝する事を目標に掲げ、気持ちを切換えて再スタートを切りました。毎週金曜日の練習も 4 月は 3・4 人の時もありましたが、負けてからは毎回 10 人程度集まるようになり、試合形式での練習が出来る様になりました。また、選手一人一人が自ら考え練習・試合に取組む様になりました。その結果、今大会においては一回戦から決勝戦まで HC 岐阜らしいハンドボールが出来、優勝する事ができました。最後に、次の目標である和歌山国体出場を目指し、チーム一丸となり頑張っていきます。

今後も HC 岐阜に暖かいご支援・ご声援をお願いします。

女子優勝：Poire

はじめまして Poire（ポワール）です！！

筆：Poire メンバー全員

中地区大会出場・優勝を目標に今年度新しく立ち上げたチームです。合言葉は『声は最大の武器！』。守っているときはもちろん、よりハンドボールを楽しむために、得点後や良いプレーをした後、ミスした後も、声をかけ合い、見てくれている人にも試合を楽しんでもらえることを大切にしています。また、Poire はフランス語でヨウナシ（洋梨）。チーム全員が 30 歳を超える中、もうヨウナシ（用無し）やなと言われないように、どのチームよりも『笑って走れる』をチームカラーとし、日々の練習も走るメニューを中心に励んできました。

そして迎えた中地区大会。初戦から、声を武器に守って速攻を中心に試合を展開することができました。7 人で挑んだ決勝戦では、試合早々相手に得点を与えてしまい、2 － 5 の滑り出し。自分たちのリズムになかなかもっていけませんでしたが、相手の退場からチームカラーである『速攻』で得点を重ね、前半を 14 対 9 で終えることができました。ハーフタイム中も、「5 点差はないもの。0 からのスタートで挑もう！」と互いに声をかけてからの後半戦。練習で合わせてきたコンビプレー、チームカラーの『速攻』で得点を重ね、点を縮められることなく勝利を収めることができました。

今大会を振り返ると、どこにも負けないチームワークで常に声を出すことを忘れず試合に臨んだこと、目立った選手はいないが、みんなで走ってどこからでも得点がとれるという強みを発揮できたことが目標としていた優勝に繋がったのだと思います。

最後になりましたが、大会を運営してくださった関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。また、いつも御支援いただいている京都府ハンドボール協会、一緒に練習してくれている京都八幡っ子♡田辺っ子♡たち、ユニホームの製作に御協力いただいた PARTIDO 様、チームを応援してくださっている大勢の皆様のおかげで、最高の仲間とともに最高の記録を残すことができたと心から感謝しております。次は、中地区二連覇に向けて、これからも楽しく笑顔でハンドボールを続けていきたいと思います。

第35回 全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会

【最終順位】

■男子	■女子
優勝：SFIDA 山口	優勝：徳山クラブ
2位：FHC	2位：ninfa・kagoshima
3位：Various 鹿児島	3位：HC 長崎
4位：あらかき歯科クリニック	4位：レキオクラブ

大会を振り返って

広島県ハンドボール協会　高野　修

参加各クラブのメンバーを眺めていて「おっ、いいじゃないの」と思わず声が出た。いかにもクラブ選手権と呼ぶにふさわしい幅広いチーム編成だったからだ。最高齢は男子が42歳、女子は何と54歳、最年少は男女とも18歳だから、大げさに言えば親子ともいえる年齢層が互いに切磋琢磨して、同じ目標に向かってチームワークを深め、戦いを挑む集団を形成しているのだ。

これこそが近年叫ばれている生涯スポーツの理想の形ではなかろうか。7月下旬から今年も開かれた全日本マスターズとも共通点があるが、こちらは年齢層に制限がある。クラブ選手権は幅広い年齢層で互いに意思の疎通を図りながらの大会と言いう点では、まさに打ってつけと言ってもいいだろう。

その全国クラブ選手権西地区大会が35年目を迎え、被爆70年となる広島市で初めて開催されたのも何かの縁なのかもしれない。

1977年に全国クラブ大会の名称でスタートし、5年後の1981年からは全国クラブ選手権と名称を変え新たに歩み始めて35年を数えた。その間、東地区、西地区に分かれ、一昨年からは中地区に再編成され、3ブロックでそれぞれ頂点を目指す大会に発展してきた。

今大会は昨年に続き、県予選、ブロック予選を戦い抜いた中国、四国、九州の男女各12クラブが参加。6月11、12日の2日間、広島グリーンアリーナと中区スポーツセンターを会場に熱戦を展開した。6月下旬に開催した第20回ヒロシマ国際大会から時間的余裕があまりない中での大会だったが、それぞれ担当分野の努力で大きなトラブルもなく終えることが出来たことは、これまで数々のビッグ大会運営をこなしてきた経験が生きたのだろうと、厚かましいながら自画自賛している。

ただ、台風9号の接近で沖縄からの女子の参加が一時心配された。一部スケジュールを変更して対応、事無きを得て予定通りすべてが進行できたことはなりよりだった。

頂点を極めたのは男子がSFIDA山口（初）、女子が徳山クラブ（前身の全国クラブ大会を含め2年ぶり4度目）だったが、山口勢初の男女優勝という二重の喜びの快挙が達成された。

予選リーグから順位決定戦まで気迫のこもった戦いが続いたが「ハンドボールを楽しみたい」という気持ちがプレーの随所で見受けられたのも、この大会の狙いの一端が垣間見られたと言ってもいいのだろう。ハンドボールという競技を通して、それぞれが絆を深め、友情をはぐくみ、試合が終われば“ノーサイド”⇒交流の輪がどんどん広がっていったように思えた。激しい激突が終われば和気あいあいのムードが充満したのも、素晴らしい大会をスケールアップさせていたようだった。

2日間を通して会場に足を運んだファンも予想以上に多く、知人のプレーに懸命に声援を送る姿もあり、コート上で噴き出す汗のしぶきを後押ししているようでもあった。

今回はA級、B級の審判審査会も合わせて行われ、30人を超すレフェリーが参加、チェックの厳しい視線を感じながらジャッジの向上に奮闘したことを書き添えておきたい。

■トピックス■

★球友はいいな～

女子のEHC（愛媛）に昨シーズンまで広島メイプルレッズで活躍した木村あいさんの姿があった。現在は故郷で指導者の道を歩んでいるということだが、その“雄姿”を応援しようと塩見綾香選手ら元球友が会場に詰めかけた。

予選リーグはブロック2位で4強入りは逃したものの、5位7位決定戦では、サイドでなくフローターとして懸命なプレーでチームをリード、かつての仲間の声援が背中を押したのかFCC（福岡）に逆転勝ち、5位につなげた。

また、ドイツに昨年から武者修行中の湧永製薬の東江太輝選手も姿を見せ、出身の沖縄の選手らと久しぶりの再会を楽しんでいた。「まもなくドイツに戻ります」という同選手。本場でのトレーニングの成果か、身体がひと回り大きくなりたくましくなっていた。間もなく開幕するシーズンでの活躍が楽しみだ。

★湧永広島県協会会長が初仕事

新年度から広島県協会会長に就任した湧永製薬の湧永寛仁社長（オーナー）が表彰式で初のプレゼンテーターを務めた。

男女の決勝を観客席から観戦した後、表彰式では日本協会、全日本社会人連盟の表彰状や優勝カップ、準優勝盾などを男女1、2位チームに授与した。

日ごろからハンドボール界の普及・振興に貢献、日本トップリーグ機構が制定している昨年度のトップリーグトロフィーを受賞したが、今後は多忙な業務の傍ら、県協会会長としての任務が加わり、ますます“大車輪”の日々が続きそうだ。

男子優勝：SFIDA 山口

SFIDA 山口代表　宇佐川 悟志

はじめに、第 35 回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会を開催するにあたりご尽力いただきました広島県ハンドボール協会をはじめ、関係者各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

今年はクラブハンドボール選手権本戦に挑戦するのは 2 度目でした。1 度目は 2 年前の第 33 回大会でした。その時は惜しくも 2 位という結果で終わり、今年こそはという想いで挑戦しました。チーム全員が強い想いで大会に臨んだことが大きな勝因の一つだったと思います。

大会ではリーグで門司クラブ、徳島クラブ、準決勝であらかき歯科クリニック、決勝で 2 年前に敗れた FHC と戦いました。どのチームでも苦戦を強いられましたが、2 年前の雪辱を晴らすという気持ちと、そのためにこれまで練習で積み重ねてきたことが実を結び勝利を得ることができました。

このチーム「SFIDA 山口」はまだまだ若く、創部し 3 年しか経っておりません。2 年前の大会では創部 1 年目ということで勢いがあり、その勢いだけで戦っていた未熟なチームでした。2 年目は勢いだけでは勝てなくなり、1 年間は苦しいときを過ごしました。その苦しみを乗り越え、3 年目になり、ようやく一つのチームとして成ったと思っています。一つのチームとし、戦うことができたからこそ、今回の優勝にたどり着けたのだと思います。「SFIDA」とはイタリア語で「挑戦」を意味する言葉です。今回の優勝に満足せず、今後も挑戦し続けるチームでありたいと思います。

応援してくださった皆様、様々なことに協力してくださった方々、今大会に携わった多くの方々・チームの皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

SFIDA 山口主将　中谷 祐太

7 月 11 日・12 日広島県で開催された第 35 回全国クラブ選手権大会・西地区大会に山口県代表として出場させていただきました。

私たち "SFIDA 山口" というチームは、高校時代の同級生と後輩が多く、和気藹々と山口県内で活動しています。

一昨年、チームを結成し、鹿児島県で開催された第 33 回の西地区大会が私たちにとっての初出場でした。結果は 2 位ととても悔しい思いをし、この大会にかける気持ちはさらに強くなりました。この悔しさをバネに迎えた翌年は、山口県予選で敗退してしまい、結成 2 年目は、"この大会にもう一度出場して優勝" を目標に練習に励みました。

そして 3 年目の今年、念願の優勝を果たす事が出来き、とてもうれしく思います。今大会はメンバー全員出場・全員得点も達成できました。チーム全員で闘う事が出来き、皆で勝ち取ることのできた優勝だと思います。社会人になってもハンドボールが大好きな仲間が集まり、仲良く楽しくハンドボールできる事を幸せに思います。今回の優勝に満足せず、ハンドボールできる環境に感謝し、さらに強いチームとなるよう努力するとともに、来年度もこの大会に出場できるよう精進していきます。

最後に対戦したすべてのチーム、ジャッジを頂いた審判の方々、また大会の為にご尽力頂きました関係者の皆様には、感謝申し上げます。そして、いつも応援に来てくれるメンバーの両親・家族、応援して頂いた全ての方に感謝しております。ありがとうございました。

女子優勝：徳山クラブ

徳山クラブ主将　井上 美喜

徳山クラブは創立60年以上の歴史あるクラブで、ハンドボールが大好きな 10 代から上は 30 代まで、男女一緒に週 2 回練習しています。今年の西日本クラブ選手権は新加入 4 名を加えて挑みました。予選リーグ、決勝トーナメント共に、苦しい試合でした。セットオフェンスでの決定力が高くないので、ディフェンスから速攻のパターンを仕掛けたいのですが、どのチームも多彩なセットオフェンスで攻撃力が高く、なかなかディフェンスから速攻のリズムを作れませんでした。キーパーの好セーブもあり、粘り強くディフェンスをして、若いメンバーが 1 試合通して速攻で走り切ることで勝ち上がったと思います。

準決勝でケガのアクシデントもありましたが、ケガをしたメンバーの分まで頑張りたい、優勝したいという気持ちがチーム全員、強くなったのだと思います。けっして上手ではないけれど、気持ちと体力で頑張ったと思います。一昨年の鹿児島県での大会は優勝、しかし昨年は予選リーグ敗退という悔しさのなか、今年は優勝することができて本当に嬉しかったです。男子の部も、SFIDA 山口が優勝し、男女で山口県が優勝ということになり、さらに喜びました！

大会関係者、審判員、オフィシャルの皆様、暑い中、大会運営に携わっていただき、ありがとうございました。優勝することができ、とても思い出深い大会でした。

第40回日本ハンドボールリーグ日程

【レギュラーシーズン】
2015年11月14日(土)～2016年3月13日(日)
男子は９チーム２回戦総当たりリーグ戦，女子は７チーム２回戦総当たりリーグ戦で順位を争います

【プレーオフ】
2016年3月26日(土)～3月27日(日)：駒沢体育館
男子、女子ともレギュラーシーズン上位４チームのトーナメントで順位を争います

《男子》９チーム
大同特殊鋼
大崎電気
トヨタ車体
琉球コラソン
トヨタ自動車東日本
湧永製薬
豊田合成
トヨタ紡織九州
北陸電力

《女子》７チーム
北國銀行
オムロン
広島メイプルレッズ
ソニーセミコンダクタ
三重バイオレットアイリス
飛騨高山ブラックブルズ岐阜
ＨＣ名古屋

※ は女子

週	月日	都道府県	会場	時間	組合せ		
1	11月14日(土)	東京都	墨田区総合体育館	12：00	豊田合成	vs	琉球コラソン
				15：00	大崎電気	vs	湧永製薬
				17：00	大同特殊鋼	vs	トヨタ自動車東日本
			武蔵村山市総合体育館	14：30	トヨタ車体	vs	トヨタ紡織九州
	11月15日(日)	東京都	武蔵村山市総合体育館	12：00	大崎電気	vs	豊田合成
				14：30	湧永製薬	vs	大同特殊鋼
		山梨県	緑が丘スポーツ公園体育館	11：30	北陸電力	vs	トヨタ車体
				13：30	トヨタ紡織九州	vs	琉球コラソン
2	11月21日(土)	宮城県	フラップ大郷２１	13：00	トヨタ自動車東日本	vs	湧永製薬
		愛知県	中村スポーツセンター	13：00	大同特殊鋼	vs	豊田合成
		沖縄県	浦添市民体育館	14：00	琉球コラソン	vs	北陸電力
	11月22日(日)	沖縄県	浦添市民体育館	14：00	琉球コラソン	vs	トヨタ車体
	11月23日(月)	宮城県	フラップ大郷２１	18：30	トヨタ自動車東日本	vs	豊田合成
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15：00	トヨタ紡織九州	vs	大同特殊鋼
3	11月28日(土)	宮城県	フラップ大郷２１	13：00	トヨタ自動車東日本	vs	トヨタ紡織九州
		埼玉県	和光市総合体育館	14：00	大崎電気	vs	トヨタ車体
		広島県	湧永満之記念体育館	13：00	湧永製薬	vs	豊田合成
	11月29日(日)	愛知県	中村スポーツセンター	13：00	大同特殊鋼	vs	北陸電力
4	12月5日(土)	山口県	岩国市総合体育館	13：00	北陸電力	vs	トヨタ自動車東日本
				15：00	湧永製薬	vs	トヨタ紡織九州
		香川県	高松市香川総合体育館	12：00	トヨタ車体	vs	大同特殊鋼
				14：30	琉球コラソン	vs	大崎電気
	12月6日(日)	広島県	東区スポーツセンター	12：00	豊田合成	vs	トヨタ紡織九州
				14：00	トヨタ車体	vs	トヨタ自動車東日本
				16：00	湧永製薬	vs	北陸電力
		愛媛県	今治市営中央体育館	13：00	大同特殊鋼	vs	琉球コラソン
5	12月12日(土)	愛知県	枇杷島スポーツセンター	13：00	豊田合成	vs	北陸電力
				15：15	大同特殊鋼	vs	大崎電気
			ウィングアリーナ刈谷刈谷	13：00	琉球コラソン	vs	トヨタ自動車東日本
				15：00	トヨタ車体	vs	湧永製薬
	12月13日(日)	福井県	北陸電力福井体育館フレア	14：00	北陸電力	vs	トヨタ紡織九州
		静岡県	静岡市中央体育館	13：00	湧永製薬	vs	琉球コラソン
				15：30	トヨタ自動車東日本	vs	大崎電気
		愛知県	ＴＧアリーナ	14：00	豊田合成	vs	トヨタ車体
6	1月9日(土)	石川県	小松総合体育館	18：00	北國銀行	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		愛知県	ブラザー体育館	13：00	ＨＣ名古屋	vs	広島メイプルレッズ
		熊本県	水俣市総合体育館	14：00	オムロン	vs	三重バイオレットアイリス
	1月11日(月)	愛知県	ブラザー体育館	13：00	ＨＣ名古屋	vs	北國銀行
		三重県	鈴鹿市立体育館	14：00	三重バイオレットアイリス	vs	広島メイプルレッズ
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ	13：00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	ソニーセミコンダクタ
7	1月16日(土)	石川県	小松総合体育館	12：00	北國銀行	vs	三重バイオレットアイリス
		広島県	東区スポーツセンター	14：00	広島メイプルレッズ	vs	オムロン
	1月17日(日)	鹿児島県	霧島市国分体育館	14：00	ソニーセミコンダクタ	vs	ＨＣ名古屋
8	1月23日(土)	埼玉県	和光市総合体育館	14：00	大崎電気	vs	北陸電力
		岡山県	総社市スポーツセンター体育館「きびじアリーナ」	11：00	ソニーセミコンダクタ	vs	北國銀行
				13：00	ＨＣ名古屋	vs	オムロン
				15：00	広島メイプルレッズ	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15：00	トヨタ紡織九州	vs	豊田合成
	1月24日(日)	広島県	東区スポーツセンター	12：00	三重バイオレットアイリス	vs	オムロン
				14：00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	北國銀行
				16：00	広島メイプルレッズ	vs	ＨＣ名古屋

9	1月30日 (土)	埼玉県	和光市総合体育館	14：00	大崎電気	vs	トヨタ紡織九州
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	14：00	北陸電力	vs	湧永製薬
		愛知県	ブラザー体育館	13：00	HC名古屋	vs	三重バイオレットアイリス
		広島県	東区スポーツセンター	14：00	広島メイプルレッズ	vs	ソニーセミコンダクタ
		熊本県	山鹿市総合体育館	14：00	オムロン	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
	2月2日 (火)	熊本県	山鹿市総合体育館	18：00	オムロン	vs	ソニーセミコンダクタ
10	2月6日 (土)	愛知県	ブラザー体育館	13：00	オムロン	vs	北國銀行
				15：15	HC名古屋	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		三重県	HOS名張アリーナ	14：00	三重バイオレットアイリス	vs	ソニーセミコンダクタ
	2月7日 (日)	石川県	小松総合体育館	14：00	北國銀行	vs	広島メイプルレッズ
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ	13：00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	三重バイオレットアイリス
				15：30	北陸電力	vs	豊田合成
11	2月11日 (木)	宮城県	大和町総合体育館	13：00	トヨタ自動車東日本	vs	大同特殊鋼
		石川県	小松総合体育館	13：00	北國銀行	vs	HC名古屋
		岐阜県	ヒマラヤアリーナ（岐阜アリーナ）	13：00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	ソニーセミコンダクタ
		広島県	呉市総合体育館（オークアリーナ）	13：00	広島メイプルレッズ	vs	三重バイオレットアイリス
				15：00	湧永製薬	vs	大崎電気
		福岡県	福岡市民体育館	14：00	トヨタ紡織九州	vs	トヨタ車体
		沖縄県	沖縄県立武道館アリーナ棟	14：00	琉球コラソン	vs	豊田合成
	2月13日 (土)	愛知県	TGアリーナ	13：00	HC名古屋	vs	ソニーセミコンダクタ
				15：30	豊田合成	vs	大崎電気
		三重県	鈴鹿市立体育館	13：00	トヨタ車体	vs	北陸電力
				15：00	三重バイオレットアイリス	vs	北國銀行
		沖縄県	沖縄市体育館	14：00	琉球コラソン	vs	トヨタ紡織九州
	2月14日 (日)	熊本県	山鹿市総合体育館	12：25	オムロン	vs	広島メイプルレッズ
				14：30	大同特殊鋼	vs	湧永製薬
12	2月20日 (土)	石川県	金沢市総合体育館	13：00	トヨタ紡織九州	vs	大崎電気
				15：00	北國銀行	vs	オムロン
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	13：00	湧永製薬	vs	トヨタ自動車東日本
				15：00	北陸電力	vs	琉球コラソン
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ	13：00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	HC名古屋
				15：30	豊田合成	vs	大同特殊鋼
	2月21日 (日)	富山県	氷見市ふれあいスポーツセンター	14：00	北陸電力	vs	大崎電気
				16：00	大同特殊鋼	vs	トヨタ紡織九州
		愛知県	TGアリーナ	14：00	豊田合成	vs	トヨタ自動車東日本
			ウィングアリーナ刈谷	13：00	トヨタ車体	vs	琉球コラソン
		鹿児島県	姶良市総合運動公園体育館	14：00	ソニーセミコンダクタ	vs	三重バイオレットアイリス
13	2月27日 (土)	三重県	鈴鹿市立体育館	14：00	三重バイオレットアイリス	vs	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		広島県	東区スポーツセンター	14：00	広島メイプルレッズ	vs	北國銀行
		佐賀県	佐賀県総合体育館	13：00	北陸電力	vs	大同特殊鋼
				15：00	トヨタ紡織九州	vs	トヨタ自動車東日本
		大分県	別府市総合体育館（べっぷアリーナ）	12：30	豊田合成	vs	湧永製薬
				14：45	トヨタ車体	vs	大崎電気
	2月28日 (日)	佐賀県	佐賀県総合体育館	13：00	大崎電気	vs	琉球コラソン
				15：00	トヨタ紡織九州	vs	湧永製薬
		長崎県	諫早市中央体育館	13：00	トヨタ自動車東日本	vs	北陸電力
				15：20	ソニーセミコンダクタ	vs	オムロン
		宮崎県	小林市市民体育館	15：00	大同特殊鋼	vs	トヨタ車体
14	3月5日 (土)	宮城県	フラップ大郷21	12：00	琉球コラソン	vs	大同特殊鋼
				14：30	トヨタ自動車東日本	vs	トヨタ車体
		岐阜県	下呂交流会館	13：00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	オムロン
	3月6日 (日)	岩手県	花巻市総合体育館　アネックス	10：00	湧永製薬	vs	トヨタ車体
				12：00	トヨタ自動車東日本	vs	琉球コラソン
				14：00	大崎電気	vs	大同特殊鋼
		三重県	スポーツの杜鈴鹿　体育館	14：00	三重バイオレットアイリス	vs	HC名古屋
		鹿児島県	霧島市国分体育館	14：00	ソニーセミコンダクタ	vs	広島メイプルレッズ
15	3月12日 (土)	東京都	墨田区総合体育館	14：00	大崎電気	vs	トヨタ自動車東日本
		石川県	小松総合体育館	13：00	北國銀行	vs	ソニーセミコンダクタ
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15：00	トヨタ紡織九州	vs	北陸電力
	3月13日 (日)	愛知県	知立市福祉体育館	13：00	トヨタ車体	vs	豊田合成
		岐阜県	ヒマラヤアリーナ（岐阜アリーナ）	13：00	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	vs	広島メイプルレッズ
		京都府	田辺中央体育館	15：00	オムロン	vs	HC名古屋
		沖縄県	沖縄県立武道館アリーナ棟	14：00	琉球コラソン	vs	湧永製薬

プレーオフ	3月26日 (土)	東京都	駒沢体育館		男女準決勝
	3月27日 (日)	東京都	駒沢体育館		男女決勝

～成功させよう「日本選手権」～

フリースロー
Free Throw

日本協会が長年にわたって構想を練り上げてきた日本選手権が12月に名古屋市で開かれる。全日本総合選手権を衣替え、種別推薦から都道府県⇒ブロック大会を経ての本大会出場となった。どのような大会になるか、どう盛り上がるか興味深いが、一面、不安もなくはない。

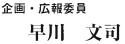
9月には全国のトップを切って九州、四国のブロック代表が決まる予定だが、顔ぶれが今から気になる。高校、大学、クラブ、社会人…多くのカテゴリーからの参加は楽しみだ。早く男子24、女子20の本大会の顔ぶれが知りたい衝動にかられる。

反面、地方協会には戸惑いがあるのも事実だ。まずは、それぞれが年間スケジュールにどのように組み込むか、あるいは、どう参加チームを募ればいいのかなど課題は多いからだ。

それはともかく、実施と決まった以上は成功させることが肝心だ。ナショナルチャンピオンシップと位置づける以上、それなりの「格」にしなければ意味があるまい。

競技者・主催者などが満足しただけの大会であっては、現代のスポーツイベントは成り立たない。まずは大会を世間にアピールするためには、何をすべきかである。それにはメディアの関心・協力を取り付けることが欠かせない。それがファンの注目・興味を集め、集客につながる最大のテーマであろう。

また、日本協会はどのような企画を考えているか知る由もないが、大会プログラムの内容もしっかりと充実したものにまとめたい。

ということは、ピラミッド型の大会にふさわしく、都道府県大会、ブロック大会の記録掲載は必須だ。次年度以降は、これらを年度別戦績として順次掲載し、歴史として残せるものにすべきだろう。

全日本総合選手権のプログラムのように年度別3位までの成績だけでは、せっかくの「真の日本一を競う大会」として寂しすぎよう。

大半の県大会が終わっている現段階では少々、遅きに失した感があるが、ブロック大会では日本協会が強力にプッシュして開催・結果の告知を徹底させることも重要なアピール手段ではなかろうか。

高校選抜大会、日本代表の合宿喫煙問題でファンやメディアの目は厳しさが増している。リオ五輪アジア予選も目前に迫っている中、新生・日本選手権を失地回復のチャンスに変えてこそ、ハンドボール界が再び信頼を得ることにつながるはずだ。

最上位としての「格」づけだけでは、何も始まらない。「格」というなら「権威」づけも同時に存在しなくてはなるまい。英知を結集して成功につなげたい。

平成27年度J.H.A.公認審判員　関東地区B級審査会に参加して

神奈川県ハンドボール協会・県立金井高校　黒木 美和子

「第45回関東クラブハンドボール選手権大会」、「第20回関東社会人ハンドボール選手権大会」は、平成27年6月19日（金）～21日（日）の三日間、神奈川県立体育センターをメイン会場に開催されました。今回の審査会には、関東地区だけでなく愛知県や三重県、佐賀県からも受験者が集まりました。振り返ってみると、個人的には神奈川県開催だったということもあり、さほど緊張せず落ち着いて受験できたのではないかと感じています。

公認審判員D級を取得してからB級審査を受験するまで、私が心がけてきたことは二つあります。一つは、できる限り多くのゲームを吹笛すること。もう一つは、ルールを熟知することです。「B級審査に挑戦したい。」と思い始めてからというもの、小中高生や大学生、社会人の試合、公式戦からプライベートゲームまで、本当に多くの試合を経験させてもらいました。私は当初、ペアがいなかったため、基本的には一人で会場に行き、そこで初めて出会った方々とペアを組み、吹笛してきました。そこで、多くの方々から様々な指導をしていただき、「引き出し」が増えていったように感じます。

『競技規則』や『競技規則問題』は、疑問に感じることがあった時に、よく見直しました。まれに『競技規則問題』とよく似た事象が試合中に目の前で起こることがありましたが、何度も問題を解いていた甲斐もあって、瞬時の判断に生かすことができました。これは私だけでなく、これまで多くの審判員の方々が経験してきたことだと思います。

こうして数年間経験を積み、二冊目に突入した公認審判員手帳と手擦れのした『競技規則』、『競技規則問題』を抱き、B級審査会に臨みました。この努力があったからこそ、自分には少しだけ「自信」がついたように思います。

大会初日は開講式、競技規則試験、審判会議が行われました。開講式では越田義昭審査指導委員長より、六つのポイントをご指導いただきました。

1．段階的罰則等の基準は、最初の五分を目処に示すこと。
2．ジェスチャーを大きくし、選手・役員・観客、誰が見ても分かりやすくすること。
3．音だけで選手が判断できるような笛の使い方をすること。
4．審判同士、アイコンタクトをとること。オフィシャルとも欠かさず行うこと。
5．危険なプレーを排除すること。
6．レッドカードは臆さず出し、今後の選手の育成にもつながるようにすること。

この後、競技規則試験が行われました。そして審判会議では神奈川県ハンドボール協会山田啓太審判長より、今大会の留意点をお聞きしました。

1．ラフプレーを排除し、プレーヤーの安全と健康を守ること。
2．スポーツマンシップに反する行為を排除すること。

大会二日目、三日目には実技審査が行われました。受験者は、神奈川県立体育センターと秋葉台体育館に分かれ、川島克之・後藤登両委員と、越田義昭・戸塚幸廣両委員にそれぞれご指導いただきました。

他の受験者や自分自身の審査を通して印象に残っていることは、「審判の立ち居振る舞いが選手に影響を与える」ということです。実際に審査試合を吹笛してみて、普段のものとは違う緊張感を味わいましたが、試合後に川島・後藤両委員より、次のことをご指導いただきました。

ジェスチャーを大きく、美しくすることが大事である。審判は、より多くの選手・役員・観客に分かるように努めなければならない。審判の良いジェスチャーで選手もより良いプレーを選択することができ、それがハンドボールをおもしろくする。

今回のB級審査会に参加して、多くの方々から様々なことを学びましたが、共通して言えることは、「審判はコンタクトをしっかり取らなければならない。」ということです。CRとGRがお互いにしっかりとコンタクトをとること、審判同士だけでなく、オフィシャルとのコンタクトをとり、連携して試合を運営すること、さらに選手とも段階的罰則等の基準を示す際にコンタクトをとること。こういった積み重ねによって、試合に関わる全ての人が「納得」するレフェリングができるのだと感じました。事実の判定だけではなく、コート全体を見る余裕を持ち、審判自身が試合を楽しむことで、選手にもハンドボールを楽しんでもらえるようなレフェリングを目指して精進していきたいです。

最後になりましたが、越田義昭氏をはじめとする審査指導委員の方々、関東ブロック審判長・浜田浩和氏、大会を支えてくださった役員の方々、拙い私のレフェリングをこれまで指導・助言してくださった多くの先輩レフェリーの方々、共に語り合った受験者、そして選手の方々に心から感謝申し上げます。B級が審判としての本当のスタートだという気持ちで、これからも励んでいきます。本当にありがとうございました。

IOC diploma in sports medicine

（公財）日本ハンドボール協会医事委員会　**井本 光次郎**（熊本赤十字病院 整形外科）

この度、スポーツ医学に関するIOC認定の専門医を取得したので、応募に至った経緯や取得までの経過について報告する。

IOC diploma in sports medicineとは、2013年に始まったスポーツ医学を履修するためのIOCプログラムである。今回、その第1期生として参加することができ、無事にdiplomaを取得することができた。

まず、このプログラムにアプライするに至った理由として、これまで培ったスポーツ医学に関する診療能力をさらに高め、世界中のsports physicianと同等に議論できる能力を身につけたいと考えたからである。さらに今後のハンドボール医学にも貢献できるのではないかと考えた。

このプログラムにアプライするためには、英語能力を証明する書類（IELTSやTOEFL、TOEICなど）、2つの推薦状、CV（履歴証明書、業績）、医師免許証などの各証明書（英文で）の提出が必要となる。これらの書類審査に合格し、授業料を収めれば履修可能となる。プログラム自体は毎年10月に始まり、part1, part2それぞれ約6カ月間のdistance learningによる講義がある。Distance learningとはwebを使用した授業であり、インターネット環境があれば、いつでもどこでも何回でも講義を受けることができる。講義は、6ヶ月の間に6つのモジュールがあり、それぞれ6〜7つの講義で構成されている。講義の内容であるが、当然、スポーツ医学全般に及ぶ膨大な内容となる。カリキュラム内容については、http://www.sportsoracle.com/Medicine/Curriculum+Content/に簡単な掲載がある。また、3ヶ月ごとには課題が課され、論文分析・批評を中心とした宿題の提出が求められる。提出後は数週間すると点数と添削結果が送られてくる。これらの授業、課題は、もちろん、全て英語で行われるため、listening, writing能力は必須である。3月にpart1が終了し、4月にはpart1の試験がある。これもwebを介して実施され、24時間以内に回答しなければならない。この試験と課題の点数次第でpart2へ進むことができる。

Part2も授業料を収めれば10月から開始となる。Part1と同じように課題もこなしつつ進んでいく。講義は3月で終了し、4月に現地での最終試験とResidential workshopが開催される。Workshopは世界4か所で開催され、私はカナダのカルガリーに振り分けられた。初日に最終試験が開催された後、3〜4日間のworkshopを通して、各国の参加者たちと講義、実技研修、討論を行いコミュニケーションを深めていく。終了後は、これまでの課題や試験の点数を総合して合否が決まる。合格すればスイス・ローザンヌでの卒業式に参加できるが、参加は必須ではない。

このプログラムを終えての感想は、学問体系としてスポーツ医学全般を学び、さらに資格が与えられるものとしては最も安価で内容が充実したものであると感じた。海外には1〜2年でスポーツ医学を学び、certificateが取得できるコースがあるが、授業料が割高という印象がある。さらにresidentを修了した医師がfellowshipとしてスポーツ医学コースに進む道があるが、その国の医師免許を取得する必要性が出てくるため容易ではない。それぞれのpartで与えられる2回ずつの課題はこのプログラムで最も難易度の高い内容であった。特に論文分析・批評という課題は日本語でも行うことが少ないものである。課題の文献を読み、その方法、結果、考察は妥当か、科学的根拠があるか、論理的に述べられているかなど要点をまとめたうえで、批評を繰り広げる必要がある。そのためには多くの文献を読み込む必要性があり膨大な時間を要した。Workshopでは、その分野での世界トップクラスの教授陣の講義や実技を受け、討論する機会があり、英会話では苦労するもこのdistance learningで唯一顔を合わせて討論できる良い機会であった。

今回、日本人9名を含む、世界で約60名のIOC diploma in sports medicine卒業者が誕生した。Workshopや卒業式で知り合えた同期は、各国の整形外科医、内科医、救急医、脳神経外科医等であり、すでに各ナショナルチームで活躍している者も多かった。

今後、ハンドボールメディカルスタッフとして選手をサポートする立場から、障害予防や管理の面において今回学んだ内容を生かし、チーム強化へ貢献できればと考えている。私の目標は、ハンドボールによる外傷を減らし、多くの競技者が長くハンドボール競技を継続できるようにすることである。それがチーム強化の一役を担えたらよい。

最後に、現在、IOC diploma courseにはsports medicineに加え、スポーツ栄養の専門家を養成するsports nutrition courseが以前より存在している。また、今年度からはsports physical therapiesも募集が始まる予定であり、栄養

Workshopにおける診察手技のトレーニング（カナダ・カルガリー）

やトレーナーの方々で興味がある方は次のホームページに募集要項が掲載されている。sportsoracle.com/Home/

ハンドボールにおける外傷調査

ハンドボールによる外傷についてであるが、ハンドボールの競技特性からオリンピック競技の中でも外傷の発生率は高いと言われている。また、その外傷により競技継続を断念せざるを得ない選手も存在することから、外傷予防策の構築は急務であると考える。しかしながら、日本人ハンドボール選手における外傷においては、まとまった調査が行われていないのが実情であり、今後予防策を構築していく上でもその基礎情報の取得は必要である。日本ハンドボール協会医事委員会では、今後、National Training System（以下 NTS）を利用した外傷調査を行っていく予定であり、さらに将来的には日本ハンドボールリーグおける外傷サーベイランスなどを行っていきたいと考えている。これらの継続的な調査が、ハンドボールにおける外傷予防方法やトレーニングの構築、さらにはその効果の検証につながり、少しでも外傷発生を減らせるのではないかと考えている。

今回、これまで国立スポーツ科学センターで行われていたハンドボール日本代表のメディカルチェックデータを利用し、そのデータより拾い上げた既往歴から外傷発生の傾向をまとめた。これらのデータは 2015 年 6 月に行われた European College of Sports Science の学術会議においてポスター発表させていただいた。今回の発表についてここで少し紹介したい。

まず、日本代表の選手は、メディカルチェックの時点で男女それぞれ 3.8 人（16%）、3.6 人（19%）が治療を行う必要性がある外傷（active）を抱えていることがわかった。さらに要経過観察（follow-up）を含めると、男女それぞれ 18.5 人（77%）、14.4 人（80%）であった。部位別では、膝関節が男女それぞれ 23%・34% と高く、続いて肩関節（17.1%・15.7%）、足関節（14.8%・13.0%）、腰部（18.5%・11.4%）と続いた（Fig 1）。最も共通の外傷タイプ（active + follow-up）は、膝関節で周囲の靭帯や腱の炎症、足関節で捻挫や不安定性、肩関節で肩板炎や肩板損傷、腰部は非特異的腰痛症であることがわかった（Table 2）。今後、特にこれらの部位における外傷の予防が重要であることがわかった。

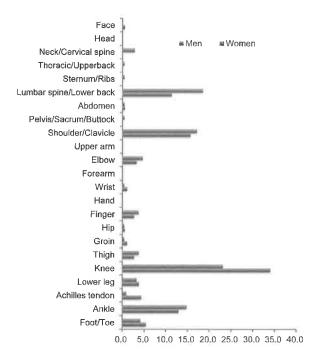



Fig 1. Incidence of Injuries classified as Active and Follow by Anatomic Area

Table 2. Most common type of Injury classified as Active and Follow in each medical check.

	Men	Women
Knee		
ACL	1.5	2.0
meniscus or cartilage	1.5	2.9
MCL,LCL,PCL	0.5	0.6
ligamentous inflamation around the knee	3.2	2.0
Foot & Ankle		
sprain	1.7	1.1
instability	0.8	1.9
impingement	1.0	0.0
Achilles tendonitis	0.3	1.0
Achilles tendon rupture	0.0	0.1
plantar fasciitis	1.3	0.6
Shoulder		
rotator cuff injury	2.3	1.3
subluxation/instability	0.8	0.6
bicipital tendonitis	0.3	0.4
acromioclavicular joint	0.7	0.1
Lumber		
spondylolysis	0.5	0.1
disc hernia	2.3	0.0
non-specific low back pain	3.3	2.6

ACL: anterior cruciate ligament, MCL: medial collateral ligament, LCL: lateral collateral ligament, PCL: posterior collateral ligament

【報告】JOCスポーツ指導者海外研修員（4）

日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修員　高橋 豊樹

かつて男子デンマーク代表のウルリク・ウィルベック監督は「ナショナル活動において、ナショナル選手となったタレントが十分なパーソナリティを備えていなかったために、あまりにも多くの時間を費やしていた」と言及しました。ここは長い心理学の説明をするための場所ではありません。しかしながら、タレントが彼自身の可能性を広げるために持っているべき最も重要な精神的な考え方に関してお伝えすることは適切であると思っています。したがって上記のウルリク・ウィルベック監督の引用で始まる言葉は、この内容にとても関連しています。

多くのタレントがそのキャリアを終えてしまう原因

DHFは、より高みに行くための資質を持っていた多くのタレントが、様々な理由からプロセスの途中でそのキャリアを終えてしまっていることを経験してきました。プロセスの途中で選手達は様々な逆境に対処できなければなりません。あなたがティーンエイジャーである場合、またはティーンエイジャーのコーチである、あるいはティーンエイジャーの両親である場合、その発達に注意することが重要です。それは多くの場合、段階的にステップアップすることもあれば、短期間に急激にジャンプアップして発達することもあります。発達が継続的に高いレベルまで直線的に移動するわけではないのです。この年代の多くの選手は、自分はもう成長しないかもしれないという不安をつねに持っています。立ち往生していると他の選手がどんどん追い越し、差を広げていっているように感じるかもしれません。さまざまな段階がありますが、これらは、多くの要因の組み合わせです。とりわけ、それらは子供の運動神経及び精神の発達に依存し、したがって、日々のトレーニングが適切に構成されていたとしても単にこれを反映しているわけではありません。残念なことにこの年齢で、多くの選手はこれに関して自分に才能が備わってないかもしれないという危機感のようなものを感じてしまいます。本来ならばその代わりにタレントは彼らの技術がさらに良くなることや、技術を改善することについてどれくらい情熱的であるかという所にベクトルを向けなければなりません。なぜなら道の途中には様々な障害があります。負傷したり、クラブや協会によるセレクションに選ばれなかったりなどといった、様々な要因で、挫折を味わう可能性があります。残念なことにDHFは、セレクションに関連した失望が選手の成長を減速させてしまっているケースをよく目にしています。タレントは、そうした逆境に対処できる忍耐力のようなものが必要ですが、それに対処できる力を最初からは持っていないことを理解し、タレントがそれらのスキルも向上させ、成長していけるようにサポートしていかなければなりません。

セレクションへの過剰な期待

セレクションに関するタレントたちの不運な反応について言うと、ユースやジュニアのナショナルチームの一員になるということが、それが実現しなかった時にトレーニングに対する情熱を奪ってしまう程の強烈なゴール（目標）であってはならないということです。もちろん、すべての若いハンドボール選手がそこに対して目標を持つこと自体は、日々のモチベーションにつながるため問題はありません。しかしそれがプレーする主要な理由である場合、実現するのは全体の数%でしかないため、健全なハンドボールの成長のためには、ゲームにおける楽しさや、新しいスキルを学ぶ好奇心が主なモチベーションであるべきです。実現が他のもの（他人や環境）に依存しているゴールを設定することは非常に危険です。

現実的かつ具体的な目標

選手は自分自身の成長のために現実的かつ具体的な特定の目標を彼らの身体的、精神的なおよびハンドボールの技術開発に関して設定する必要があります。そして、それらの目標を彼らのトレーニングのためのガイドラインとするべきです。これらは挫折といった悪い期間を経験するときの彼らの助けとなり、彼らの発展の次なる飛躍をするための最高の状況をつくりだします。

選手が陥りやすい落とし穴は、タレントが目標や取り組む姿勢に対して口にすることと実際の行動のすることの間にはギャップが生まれるということです。つまり『言うことは言う』が『やるべきことをやる』という状況には必ずしもならず、必要なハードワークをするモチベーションよりも、他のたのしみに対する意欲のほうが大きくなってしまうことがあるということです。このような選手の目標と努力の間にギャップがある時に、選手にそのことを認識させることがとても重要です。その作業は早ければ早いほど良く、選手をいち早く正しい軌道にのせることが大切になってきます。デンマークでは、この作業を地区、あるいはタレントコーチが認識しておらず、クラブと協会の連携が上手くとれていなかった時代は、選手のアンバランスさを改善するために多くの時間を費やしていました。選手の軌道を正しい軌道に戻す試みをするに従って、「The Danish Way」において求められる理想の選手が生まれる可能性が高まり、デンマークの代表チームはより大きなチャンスをつかめるようになりました。

このアンバランスさはチームの他の選手へ間違った信号を送る可能性があるので、DHFは普段のクラブのトレーニングにおいてフィジカルトレーニングに専念しない選手をセレクションしません。ここで言いたいことは、デンマークのジュニア選手がみなフィジカルトレーニングを週当たり4回行わなければならないということではありません。それは「意識の位置合わせ」をするということであり、ハンドボールをプレーすることの楽しさは保たれたまま、どれだけの時間をフィジカルトレーニングに投資したかということであり、そうでない場合コーチもタレントもお互いの時間を無駄にすることになってしまうということです。目標とすることは選手が現実的な自己イメージを持っているということです。

必要とされるトレーニングを実行する力

もう一つの精神的なキーは、選手が望むものだけでなく必要とされるトレーニングを実行する能力です。これはハンドボールのキャリアの途中であなたが楽しんではならないということを意味するのではありません。しかしもしもあなたが、彼らがゴールに向かう途中で「しなければならないトレーニング」の時間は多くないという印象を与えている場合、それは選手の目をくらましていると言えます。コーチはボールを使わないようなトレーニングメニューの重要性も選手にしっかりと認識してもらい、同じぐらい力を入れて支援する必要があるということです。タレントは、この事実を認識しておく必要があり、そして、すべてのカテゴリーのコーチは、彼らにそういったトレーニング時間の重要性に対して彼らの目が開くように支援しなければなりません。通常のハンドボールと同じぐらいフィジカルトレーニングの時間に多くの努力を費やすように彼らを奮起鼓舞しなければなりません。

「We cannot change personality, but we can change behavior」私たちは持って生まれたPersonalityは変えることはできません。しかし自身のPersonalityを理解した上で、自らの行動や態度は変えることができます。タレントが真のエリート選手となる階段を登るためには、自らの行動を変えることで高みまで登ることができます。そしてそれは選手を支えるコーチにもいえることです。

日体協公認指導者資格「上級コーチ」専門科目講習会報告

日時：2015年7月3日～7日（5日間：40時間）　**会場**：味の素ナショナルトレーニングセンター
講師：基調講演および実技指導――モチャイ・ラヨシュ（元ハンガリー男子代表監督・女子代表監督、ハンガリーハンドボール協会会長、ハンガリー国立体育大学学長）、ネメシュ・ローランド（筑波大学助教：通訳）
コーチングのジレンマ――東海林祐子（慶應義塾大学准教授）
チームマネジメント――田中俊行（HC名古屋ヘッドコーチ）
日本代表チーム構想――岩本真典（日本代表男子チーム監督）、栗山雅倫（日本代表女子チーム監督）
世界のジャッジ――家永昌樹（元国際審判員）、福島亮一（元国際審判員）

平成27年度（ハンドボール競技）上級コーチ養成講習会専門科目集合講習会日程

日程		第1日			第2日			第3日			第4日			第5日	
期日		7月3日(金)			7月4日(土)			7月5日(日)			7月6日(月)			7月7日(火)	
時間		科目名(時間)	講師		科目名(時間)	講師		科目名(時間)	講師		科目名(時間)	講師		科目名(時間)	講師
7.00														朝食各自 チェックアウト	
8.00					朝食各自			朝食各自			朝食各自		理論	世界のジャッジ（パネルディスカッション）(2時間)	家永 福島 研修室5
9.00～12.00				実技	(デモ:筑波学生)(3時間)	モチャイ	実技	(デモ:筑波学生)(3時間)	モチャイ	実技	(デモ:筑波学生)(3時間)	モチャイ		最終試験(2時間)	研修室5
12.00		受付 開講式			昼食			昼食			昼食			解散	
13.00	理論	コーチの役割(2時間)	モチャイ 研修室5	実技	(デモ:筑波学生)(3時間)	モチャイ	実技	(デモ:筑波学生)(3時間)	モチャイ	実技	(デモ:筑波学生)(2時間)	モチャイ			
15.00	理論	コーチングのジレンマ(2時間)	東海林 研修室5							発表	自チーム構想×2名	受講生2人			
16.00				発表	自チーム構想(20分発表10分質疑)×4名(2時間)	受講生4人 研修室5	発表	自チーム構想(20分発表10分質疑)×4名(2時間)	受講生4人 研修室5	理論	日本代表男女のチーム構想(2時間)	岩本 栗山 研修室5			
17.00		講習会全体ガイダンス(1時間)	研修室5												
18.00		夕食			夕食			夕食							
19.00	理論	チームマネジメント(2時間)	田中俊 研修室5	発表	自チーム構想(20分発表10分質疑)×4名(2時間)	受講生4人 研修室5	発表	自チーム構想(20分発表10分質疑)×4名(2時間)	受講生4人 研修室5						
21.00～22.00															

2015日体協公認上級コーチ養成講習会受講者

氏　名	勤務先
酒巻清治	トヨタ車体
金原理博	富山県教育委員会
大橋　晃	愛知県星城高等学校
福村正巳	福井県北陸高等学校
末岡政広	長崎県瓊浦高等学校
田中　茂	日本ハンドボール協会
西みどり	豊田市ハンドボール協会
北野香代	横浜市立六角橋中学校
青戸あかね	広島県山陽高等学校
中川善雄	トヨタ自動車東日本
扇山貴司	愛媛県立今治東中等教育学校
新垣英之	沖縄県立知念高校
下川真良	朝日大学
櫛田亮介	三重バイオレットアイリス
香川将之	トヨタ車体
末松　誠	大同特殊鋼
吉村　晃	豊田合成
松木優也	武庫川女子大学

はじめに

日本協会指導委員会は、毎年「コーチ」養成講習会を開催し、これまでにコーチ資格取得者は439名（2015.7現在）にまで増えましたが、2015年は「上級コーチ」養成講習会を4年ぶりに開催致しました。現在、日本ハンドボール協会には上級コーチ資格認定者が76名（2015年実質登録者）いますが、他競技と比較しても、全競技団体中第10位の人数であり、悲願のオリンピック出場とそのための国際大会での日本代表の活躍を見据え、国際レベルの指導者を数多く輩出するために、強化委員会およびNTS委員会と共同して受講者を選定して、海外の優秀指導者等による5日間40時間に渡る専門科目講習会が行われました。

豪華な講師陣

メイン講師には、2014トップコーチセミナーで招聘し、その指導法が日本の関係者からも高く評価された元ハンガリー男女代表監督であり、ハンガリーハンドボールアカデミー創設者でもあり、現在はハンガリーハンドボール協会会長を務めるモチャイ・ラヨシュ氏を迎えるとともに、日本代表スタッフから岩本真典男子代表チーム監督ならびに栗山雅倫女子代表チーム監督を、レフェリー部門の講師として家永昌樹氏・福島亮一氏の元国際審判員を、理論編の講師として東海林祐子氏と田中俊行氏を招き、国際レベルの指導者資格としての上級コーチ養成に相応しい講師陣となりました。

基調講演「コーチの役割」

基調講演「コーチの役割」では、モチャイ氏による世界標準のコーチングの考え方が提示されました。ハンガリーの国民性は日本人と共通している部分がとても多く、モチャイ氏の理論は、従来の海外指導者がどちらかといえば欧州的思考だったのと比べて、モチャイ氏自身が世界のトップレベル指導者として勝負の世界を生きてこられながら、『よりよい人間になるための教育が大切である』という、日本人指導者にも受け入れられやすい思考要素が数多く含まれており、受講生全員が納得の表情で聞き入っていました。

理論「コーチングのジレンマ」「チームマネジメント」

慶應義塾大学准教授でスポーツ心理学が専門である東海林祐子先生が「コーチングのジレンマ」と題して、チームを指導する際に訪れる様々なジレンマについて、グループワークを取り入れながら受講生自らが具体例を考える講義を展開しました。東海林先生は2002年に瓊浦高校を率いて日本一に輝いた経験を基に、日本のトップレベル指導者であっても体験するジレンマを、受講生の指導経験に照らし合わせながら自らの指導法を改めて見つめ直す120分となりました。

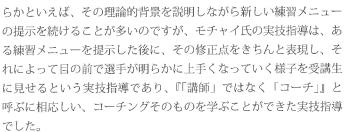
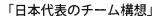
HC名古屋の田中俊行ヘッドコーチは、御自身の会社の立場から「チームマネジメント」についての考え方・捉え方を紹介し、技術指導だけではコーチングは成立しない時代であることを詳細に教示

しました。

実技指導

筑波大学男子ハンドボール部員をデモンストレーターとして、「6：0防御に対するチーム攻撃戦術」「オープン防御に対するチーム攻撃戦術」「5:1 防御に対するチーム攻撃戦術」「速攻の基礎トレーニング」「数的優位時の攻撃」の5テーマについて、16時間に及ぶ『現場のコーチング』を展開しました。現場のコーチングと称したのは、従来の講習会はどち

らかといえば、その理論的背景を説明しながら新しい練習メニューの提示を続けることが多いのですが、モチャイ氏の実技指導は、ある練習メニューを提示した後に、その修正点をきちんと表現し、それによって目の前で選手が明らかに上手くなっていく様子を受講生に見せるという実技指導であり、『「講師」ではなく「コーチ」』と呼ぶに相応しい、コーチングそのものを学ぶことができた実技指導でした。

「日本代表のチーム構想」

現在の日本代表チーム監督両名に、「日本の目指すべき姿」について、映像資料も合わせながら、それぞれ1時間に渡って、講演いただきました。オリンピック予選を秋に控えて、すべての情報開示というわけにはいかない状況でしたが、日本の進むべき道について、岩本・栗山両監督から熱い想いと冷静な現状分析について説明があり、受講生からの活発な質問に対しても、答えられる範囲で誠意的にお答え頂くことができました。

「世界のジャッジ」

世界と戦う際に、上級コーチ指導者がどうしても知っておかなければならないことは、世界基準と日本基準の違いを明確に知っておくことです。このために、元国際審判員である家永・福島両氏とともに、世界と日本の違いについて、映像を基に、ベンチの立場とレフェリーの立場から議論を交わしました。特に、福島氏は審判部競技規則研究専門委員会委員長でもあり、今後の日本のジャッジの方向性に向けて、とても建設的な意見が交わされた時間となりました。指導者視点としても、女子代表の Attack the Attack の守り方を、どうやって日本の青少年期指導の考え方に落とし込めるのかについて、レフェリングの立場から意見を求める場面もありました。

ダブルテーマであった「自分の指導構想発表」

今回の上級コーチ養成講習会は、世界標準としての「モチャイ氏による指導」がメインテーマでしたが、もうひとつのテーマとして、日本標準を知る「自分の指導構想発表」がありました。これは、日本のトップレベル指導者が集った今回の受講生1人1人に対し、自分のこれまでのハンドボール指導観を整理し公開することを目的として、講習会前に PowerPoint でまとめてくることが事前課題として課されていました。

大袈裟に言えば、これまで日本のハンドボール界において、実績を残した指導者の詳細なハンドボール指導観が公（おおやけ）にされることはほとんどなかったと言ってもいいのではないでしょうか。今回の上級コーチ講習会には紛れもなく現在の日本におけるトップレベルの指導者が集っていました。ここでまとめられた18個の PowerPoint は必ず【日本の宝物】になる。この宝物を次回、次々回の講習会でも蓄積していき、然るべき方法とタイミングで公開することができれば、日本の指導者レベルは格段にアップするという信念からのカリキュラム設定でした。当然、受講者同士がお互いの指導観に対して、共有し議論することが出来れば、講習会のテーマとしても申し分ないものになることは疑う余地もありません。

実際、1人20分間の持ち時間で20枚前後の PowerPoint を使った発表では、多くの質問が飛び交い、日本の未来にとってとても濃密な時間になったとともに、発表者自身も緊張の中でプレゼンテーション能力を高める機会になりました。

この18個の【日本の宝物】については、方法論とタイミングを熟考して、日本中の指導者の皆さんに公開するよう準備中です。

通訳としてのネメシュ・ローランド氏

講習会全体を通して、ローランド氏の活躍なくして今講習会の成功はあり得ませんでした。モチャイ氏はハンガリー人としてのマジャル語と少しのドイツ語しか喋ることができないため、普通の通訳ではその全てを理解するのには困難極まりない状況でしたが、日本のハンドボール界にも精通している筑波大学助教のローランド氏が、日本の様々な現状を踏まえた上で、的確に日本のハンドボール言語にまで落とし込んで表現したことによって、全くストレスなく理解することができました。受講生・運営スタッフともに、大変感謝しております。この場をかりて改めて御礼申し上げます。

最後に

4年ぶりに開催された上級コーチ養成講習会でしたが、受講生はこの専門科目講習会が終わった後、更に共通科目講習会の受講が義務付けられています。日本各地において日体協の主管で開催される宿泊を伴った集合講習会での検定試験合格を経て、晴れて上級コーチ資格取得者となります。最後まで負けないで頑張って欲しいと思います。

来年度は「コーチ養成講習会」を開催予定です。各都道府県単位で養成講習会を開いている「ハンドボール指導員」とは違い、都道府県協会やブロック・中央連盟からの推薦によって受講者を募ります。よりレベルの高い研鑽を求めて、手を挙げていただいた指導者について、各協会・連盟はご推薦下さい。

これからも、指導委員会は、指導者が学べる様々な場を提供していくことをお約束します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

スコアールーム①

第35回全国クラブ選手権大会西地区大会

開催期日：2015年7月11日(土)～12日(日)
会　　場：広島市・広島グリーンアリーナほか

【男　子】

▼予選Aブロック

Various鹿児島（鹿児島） 28（19－12、9－16）28 HC大分（大分）
Various鹿児島（鹿児島） 32（15－6、17－8）14 弓ヶ浜クラブ（鳥取）
HC大分（大分） 35（19－7、16－14）21 弓ヶ浜クラブ（鳥取）

▼予選Bブロック

FHC（福岡） 22（12－11、10－9）20 中央クラブ（香川）
FHC（福岡） 30（14－5、16－8）13 広島HC（広島）
中央クラブ（香川） 29（17－11、12－10）21 広島HC（広島）

▼予選Cブロック

あらかき歯科クリニック（沖縄） 20（8－10、12－9）19 総社クラブ（岡山）
あらかき歯科クリニック（沖縄） 28（12－9、16－8）17 熊本教員クラブ（熊本）
総社クラブ（岡山） 24（10－5、14－13）18 熊本教員クラブ（熊本）

▼予選Dブロック

SFIDA山口（山口） 22（11－9、11－8）17 門司クラブ（福岡）
SFIDA山口（山口） 35（15－9、20－14）23 徳島クラブ（徳島）
門司クラブ（福岡） 24（11－13、13－9）22 徳島クラブ（徳島）

▼9位11位決定戦

弓ヶ浜クラブ 24（12－9、12－9）18 広島HC
徳島クラブ 36（17－10、19－12）22 熊本教員クラブ

▼5位7位決定戦

HC大分 26（12－7、14－11）18 中央クラブ
総社クラブ 28（12－11、16－10）21 門司クラブ

▼準決勝

FHC 30（14－11、16－11）22 Various鹿児島
SFIDA山口 27（12－7、15－11）18 あらかき歯科クリニック

▼決　勝

SFIDA山口 21（12－9、9－9）18 FHC

【女　子】

▼予選Eブロック

HC長崎（長崎） 25（16－11、9－5）16 宮崎クラブ（宮崎）
HC長崎（長崎） 24（14－5、10－4）9 岡山クラブ（岡山）
宮崎クラブ（宮崎） 18（11－7、7－6）13 岡山クラブ（岡山）

▼予選Fブロック

徳山クラブ（山口） 19（9－8、10－6）14 香川レディース（香川）
徳山クラブ（山口） 25（11－7、14－9）16 うとスポーツクラブ（熊本）
香川レディース（香川） 15（10－9、5－5）14 うとスポーツクラブ（熊本）

▼予選Gブロック

レキオクラブ（沖縄） 17（9－7、8－6）13 EHC（愛媛）
レキオクラブ（沖縄） 31（14－4、17－6）10 EAGLES（岡山）
EHC（愛媛） 23（9－6、14－4）10 EAGLES（岡山）

▼予選Hブロック

ninfa・kagoshima（鹿児島） 21（11－6、10－14）20 FCC（福岡）
ninfa・kagoshima（鹿児島） 31（13－6、18－10）16 瀬戸内レディース（広島）
FCC（福岡） 34（18－7、16－7）14 瀬戸内レディース（広島）

▼9位11位決定戦

うとスポーツクラブ 26（16－4、10－8）12 岡山クラブ
瀬戸内レディース 16（5－8、11－5）13 EAGLES

▼5位7位決定戦

香川レディース 26（11－9、15－12）21 宮崎クラブ
EHC 22（10－11、12－8）19 FCC

▼準決勝

徳山クラブ 19（7－8、12－8）16 HC長崎
ninfa・kagoshima 25（13－4、12－8）12 レキオクラブ

▼決　勝

徳山クラブ 21（6－6、15－9）15 ninfa・kagoshima

スコアールーム②

第35回全国クラブ選手権中地区大会

開催期日：2015年7月11日(土)～12日(日)
会　　場：新潟県柏崎市、上越市・柏崎市総合体育館ほか

【男　子】

▼1回戦

静岡県教員団（静岡） 26（12－10、14－10）20 HC新潟（新潟）
ボンチフェローズ（大阪） 29（12－9、17－3）12 長野クラブ（長野）
八光自動車工業（近畿） 26（12－4、14－7）11 小松オールウェイズ（石川）
FSV TOKAI（愛知） 29（17－8、12－8）16 FALCOM（和歌山）
咲乱（三重） 20（11－10、9－8）18 ききときクラブ（富山）
HC奈良（奈良） 22（10－9、8－9）21 金津クラブ（福井）
（4　7mTC　3）
HC岐阜（岐阜） 32（18－5、14－3）8 柏崎クラブ（新潟）

▼2回戦

KSV（兵庫） 21（10－8、11－5）13 静岡県教員団（静岡）
ボンチフェローズ（大阪） 24（14－3、10－14）17 FSV TOKAI（愛知）
八光自動車工業（近畿） 30（15－9、15－6）15 咲乱（三重）
HC岐阜（岐阜） 27（15－3、12－12）15 HC奈良（奈良）

▼敗者戦

ＨＣ新潟 24（9－7、15－6）13 小松オールウェイズ
FALCOM 30（17－11、13－7）18 長野クラブ
静岡県教員団 20（9－4、11－11）15 きときとクラブ
金津クラブ 18（11－9、7－9）18 柏崎クラブ

▼準決勝

八光自動車工業 21（12－10、9－7）17 KSV
ＨＣ岐阜 24（10－8、14－8）16 ボンチフェローズ

▼３位決定戦

ボンチフェローズ 27（14－8、13－8）16 KSV

▼決　勝

ＨＣ岐阜 24（9－10、15－10）20 八光自動車工業

【女　子】

▼１回戦

三重娘（三重）29（14－8、15－7）15 ＨＣ富山（富山）
ドルフィンズ（石川）22（10－8、12－8）16 NTF立命館守山（京都）

▼２回戦

cheeky（愛知）19（11－8、8－7）15 屋代クラブ（長野）
Poire（京都）35（22－2、13－5）7 新潟ＴＣ（新潟）
三重娘（三重）17（10－5、7－5）10 御座候（大阪）
BRHC（岐阜）20（11－5、9－12）17 ドルフィンズ（石川）

▼敗者戦

NTF立命館守山 17（11－3、6－6）9 新潟TC
ＨＣ富山 21（6－4、15－3）7 屋代クラブ
ドルフィンズ 16（7－4、9－9）13 御座候

▼準決勝

三重娘 22（12－6、10－6）12 cheeky
Poire 32（19－3、13－6）9 BRHC

▼３位決定戦

BRHC 24（13－5、11－12）17 cheeky

▼決　勝

Poire 24（14－9、10－6）15 三重娘

スコアールーム③

第35回全国クラブ選手権東地区大会

開催期日：2015年7月11日（土）～12日（日）
会　　場：山梨県甲府市・小瀬スポーツ公園体育館ほか

【男　子】

▼１回戦

富岡ハンドボールクラブ（群馬）26（14－5、12－11）16 北村山東根クラブ（山形）
蓮田クラブ（埼玉）24（16－7、8－11）18 白堊クラブ（岩手）
土浦三高クラブ（茨城）31（11－12、13－12）29 日川クラブ（開催地）
（2－2 延長 5－3）
学石クラブ（福島）26（15－8、11－11）19 松葉送球会（千葉）
ラージェスト（東京）30（14－7、16－9）16 花巻クラブ（岩手）
東陽（栃木）24（10－11、14－12）23 上送（山形）
甲府クラブ（山梨）44（24－13、20－10）23 Y.S.C（秋田）
エルムクラブ（北海道）30（14－9、16－13）22 麻生フェニックス（茨城）

▼２回戦

富岡ハンドボールクラブ 25（11－8、14－10）18 蓮田クラブ
学石クラブ 23（11－12、12－9）21 土浦三高クラブ
ラージェスト 21（12－8、9－11）19 東陽
甲府クラブ 39（23－11、16－21）32 エルムクラブ

▼準決勝

富岡ハンドボールクラブ 37（17－11、20－16）27 学石クラブ
甲府クラブ 32（18－10、14－10）20 ラージェスト

▼３位決定戦

学石クラブ 22（11－12、11－5）17 ラージェスト

▼決　勝

甲府クラブ 47（22－16、25－16）32 富岡ハンドボールクラブ

【女　子】

▼１回戦

オレンジクラブ（栃木）28（18－11、10－12）23 HC秋田w（秋田）
SAKURAクラブ（東京）16（9－6、7－8）14 ガピアーノチップス（神奈川）
日川クラブL（開催地）28（15－4、13－8）12 日吉台クラブ（千葉）
梅の家（東京）26（12－8、14－8）16 岩手桐花クラブ（岩手）
REDS（埼玉）42（19－7、23－3）10 北海道倶楽部（北海道）
相模原クラブ（神奈川）28（12－13、16－11）24 yamagirls（山梨）
石川クラブ（福島）27（12－12、10－10）25 やんちゃクラブ（群馬）
（2－2 延長 3－1）
HC東京VENUS（東京）29（16－8、13－10）18 筑波学園クラブ

▼２回戦

オレンジクラブ 25（13－12、12－11）23 SAKURAクラブ
梅の家 21（11－4、10－7）11 日川クラブL
REDS 27（13－7、14－9）16 相模原クラブ
HC東京VENUS 25（11－6、14－10）16 石川クラブ

▼準決勝

オレンジクラブ 23（13－9、10－12）21 梅の家
REDS 25（15－8、10－13）21 HC東京VENUS

▼３位決定戦

梅の家 22（12－10、10－8）18 HC東京VENUS

▼決　勝

REDS 18（5－9、13－7）16 オレンジクラブ

▶日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」回覧簿◀

全国のクラブ・部活動でハンドボールをプレーしている皆さん！　日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」（本誌）をぜひ仲間と共に読んでみてください。代表監督・選手のコメント、各種大会の結果報告、海外情報など、きっと皆さんのハンドボールライフに役に立つ情報が掲載されているはずです！

閲覧者	1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	25	26

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」6・7月入会・継続会員

【青森】田辺貴美子【宮城】尾形俊賢【群馬】酒井　宏【埼玉】佐藤秀明、佐藤三枝子【千葉】康本拓史【東京】増田美穂子、岡本康男、安藤純光、大津武彦、小笠原泰代【神奈川】河野卓也、木本一成、原　陽平、花岡美智子【山梨】齊藤　實【福井】高井慶治【静岡】永井裕之【愛知】黒部泰弘、安藤　孝、山田壮八、竹内佐織、持田公一郎、鵜飼大地【大阪】里村静俊【和歌山】吉田正明、吉田恵子、加藤照男【愛媛】森實岳史【福岡】和佐野健吾、日野祐一郎【沖縄】崎田尚孝

【9月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

9月12日(土)　常務理事会

9月27日(日)　第1回全国理事長会

【大会】……………………………………………………

9月16日(水)～21日(月)

日韓スポーツ交流（受入・男子）（佐賀県・神埼市予定）

9月16日(水)～21日(月)

第19日韓スポーツ交流（受入・女子）(佐賀県・神埼市予定)

9月28日(月)～10月2日(金)

第70回国民体育大会………………………（和歌山市ほか）

HAND BALL CONTENTS Aug.Sep.

代表取締役　青木 理恵

販売から賃貸管理までトータルサポート

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、
お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。
この秋私共の自社ブランド『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)
シリーズも第三弾を分譲する予定です。
これも、日ごろから皆様方のお力添え
があってこそでございます。
本当にありがとうございます。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは、女子ハンドボールを応援しています!!

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

(公財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第五五三号

平成二十七年八月二十六日印刷
平成二十七年九月一日発行

東京都渋谷区神南一—一—一
電話　代表〇三—三四八一—二三六一
振替　〇〇一二〇—七—一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円